

第3章

調査票調査

第3章 調査票調査

清水益治

1 方法

1. 調査対象

調査対象は、全国の各都道府県の民営認可保育所に限定した。層化無作為抽出法を行い、その10分の1にあたる1,429施設を抽出した。

2. 材料

保育所長用（以下、保育所長編）と保育士用（以下、保育士編）の調査票を作成した。

保育所長編は、調査対象の保育所の所長に記入を求めた調査票であり、以下の6つの設問で構成した。

- (1) 保育所のこと：①園の所在地、②同一法人内の保育所の数、③児童定員数、④クラス別在籍児童数、⑤職員数、⑥他の認可保育所の勤務を経験した保育士の有無、⑦給与体系、⑧年功序列に別法人等で働いた保育士経験を含めているかどうか、⑨就業規則に人事考課を位置づけているか、⑩保育士の昇級や昇格にキャリアパスを考慮しているか、⑪キャリアパスを考慮した保育所職員の処遇システムが必要と思うか、⑫主任保育士という役職を置いているか、⑬主任保育士の勤務年数
- (2) 回答者自身のこと：①所長としての通算勤務年数、②持っている資格・免許、③キャリアパスについての知識の有無、④キャリアパスについての理解の程度
- (3) さまざまな業務を実際に行っている保育士の経験年数
- (4) さまざまな業務に対して、理想として、任せたい保育士の経験年数
- (5) 保育所でキャリアパスを構築していくために、様々な要素が必要となる程度
- (6) 市や自治体がキャリアパスを構築していくために、様々な要素が必要となる程度

保育士編は、認可保育所での保育士（正規職員）としての通算勤務年数が7年未満の方用と、7年以上の方用の2種類の調査票を作成した。内容は全く同じであり、以下の5つの設問で構成した。

- (1) さまざまな業務に対してどの程度できるか
- (2) さまざまな業務に対して、自信を持ってできるようになるには何年の経験年数が必要と思うか
- (3) さまざまな業務に対する研修の希望と経験
- (4) 仕事へのやりがいをどの程度感じるか

- (5) 回答者自身のこと：①保育士資格の取得方法、②保育士としての通算勤務年数、③年齢、④保育士以外の職務経験、⑤現職場以外での保育士としての勤務経験、⑥配偶者の有無、⑦子どもの有無、⑧将来、いつまで働きたいか
- 実際に用いた調査票を、本書巻末P109ページから掲載する。

3. 手続き

- (1) 調査期間：平成26年10月27日～平成26年11月19日
- (2) 調査時点：平成26年10月1日
- (3) 配布・回収方法：調査依頼状（倫理的配慮に関する内容を含む）とともに、保育所長編を1通と、保育士編は経験年数7年未満の者用2通と同7年以上の者用2通を送付した。回収に当たっては、回答されたすべての調査票を1つの回収用封筒に入れて、日本保育協会に送付してもらう形にした。

2 結果

回収された調査票は、保育所長編が529票（回収率37.0%）、保育士編が1,850票であった。このうち、保育所長編については、Ⅲ、Ⅳの設問において、選択肢ではなく、実年数を用いた記述と思われる調査票（8までしかない選択肢に対して10、15などの数字が記入されていた）が19票あった。そこでこれらは分析から外した。分析対象は保育所長編が510票、保育士編が1,850票である。

I. 保育所長編の分析

1. 回答した保育所

- (1) 同一法人内にある保育所の数

無回答が29票あった。平均は2.9、最小値は0、最大値は46であった。

- (2) 児童定員数

分布を示したものが図 I - 1 である。90人、60人、120人が多かった。この結果は一般的な保育所の定員の分布と類似している。

- (3) 在籍児童数

表 I - 1 は、年齢別の在籍児童数の平均、最小値、最大値等を示したものである。

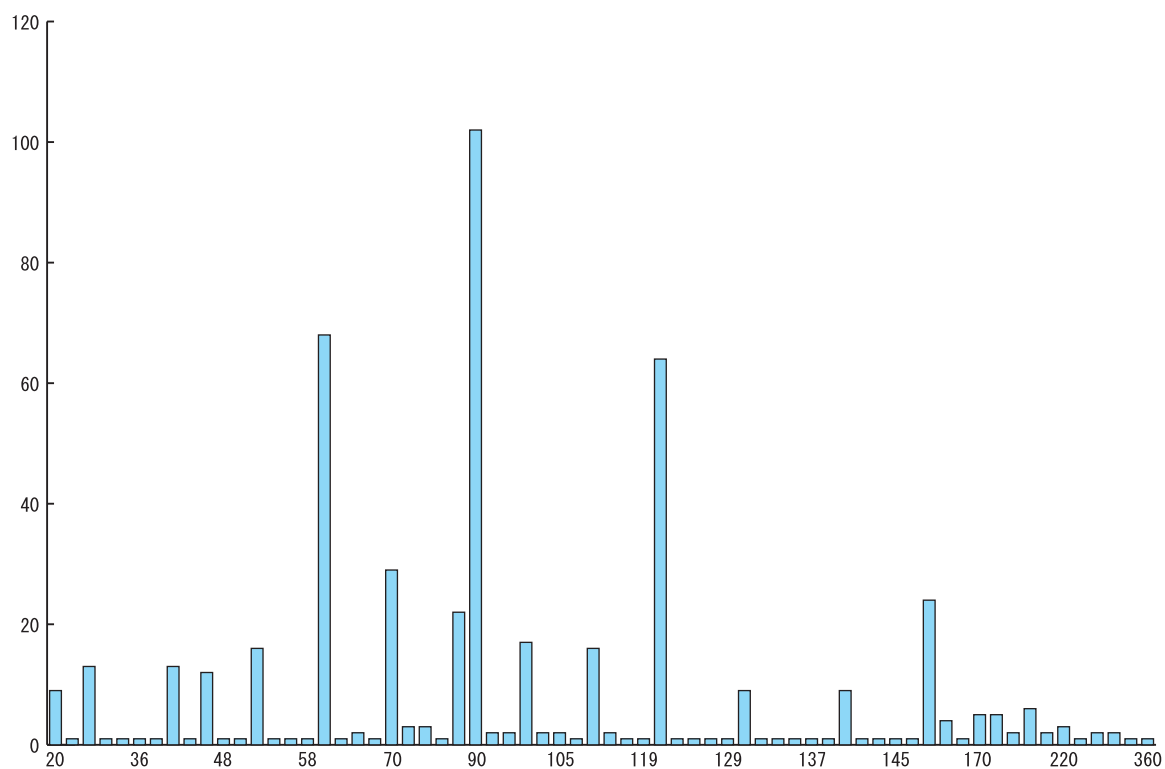


図 I - 1 児童定員数の分布（縦軸は回答者数、[人]。以下、括弧内は縦軸）

表 I - 1 在籍児童数の平均等

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児以上	計
平均	9.8	16.0	18.5	20.7	20.6	20.3	104.0
最小値	0	0	0	0	0	0	2
最大値	35	54	66	79	77	78	367
無回答票数	19	11	11	24	26	28	26

（４）職員数

表 I - 2 は、職員数の平均等を示したものである。

表 I - 2 職員数の平均等

	保育所長	保育士			調理員		事務員		その他	合計
		正規		非正規	正規	非正規	正規	非正規		
		勤務年数 7 年以上	勤務年数 7 年未満							
平均	1	5.8	6.2	8.0	1.8	1.8	0.8	0.6	2.1	26.0
最小値	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
最大値	1	26	28	31	8	10	4	5	20	78
無回答票数	4	25	25	38	58	86	199	218	109	57

(5) 他の認可保育園の勤務経験者の有無

「職員の中に保育士として他の認可保育所（公営・民営）での勤務を経験した方がおられますか」と尋ねて、「いる」場合は、その人数を書いてもらった。「いる」という回答は92.7%と、9割以上の保育所には、他の保育所勤務経験者がいた（「いない」は5.3%、無回答2.0%）。人数の平均は、6.8人で、その分布を示したものが図 I-2 である。5名程度までが多いが、20名以上いると回答した保育所長も10名以上いた。

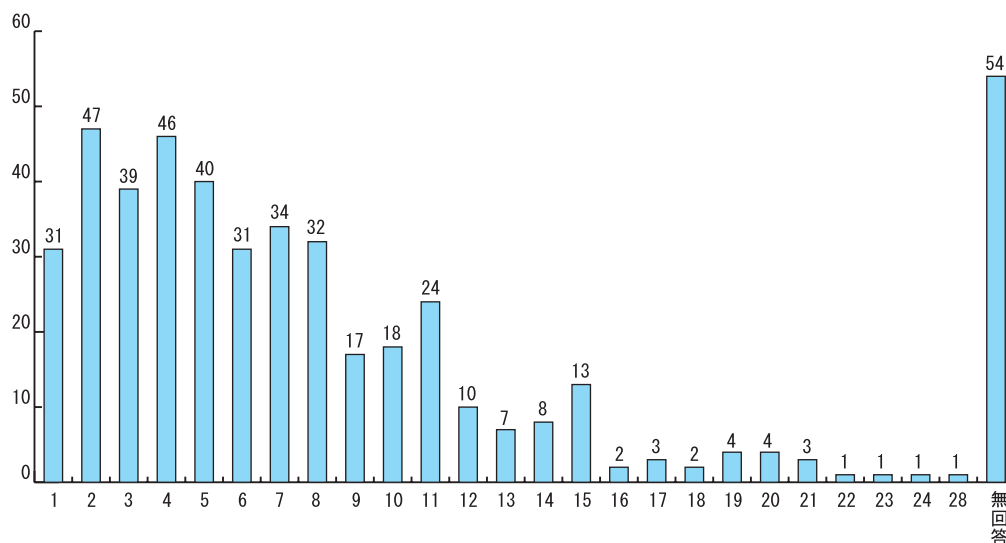


図 I-2 他の保育所勤務経験者数の分布（人）

(6) 年功序列の給与体系

「給与体系は年功序列ですか」と尋ねて、「はい」と「いいえ」から選んでもらったところ、「はい」が69.2%、「いいえ」が27.5%であった（無回答3.3%）。7割近くは年功序列の給与体系であった。

(7) 保育士経験を年功序列に考慮

先の質問で、給与体系が年功序列であると回答した353名の保育所長に、「別法人等で働いていた場合の保育士経験を年功序列に考慮していますか」と尋ねて、「はい」と「いいえ」から選んでもらったところ、「はい」が89.2%、「いいえ」が10.5%であった（無回答0.3%）。9割近くは考慮していた。

(8) 人事考課

「就業規則に人事考課を位置づけていますか」と尋ねて、「はい」と「いいえ」から選んでもらったところ、「はい」が38.6%、「いいえ」が54.9%であった（無回答6.5%）。位置づけてい

た保育所は4割を切っていた。

(9) キャリアパスの考慮

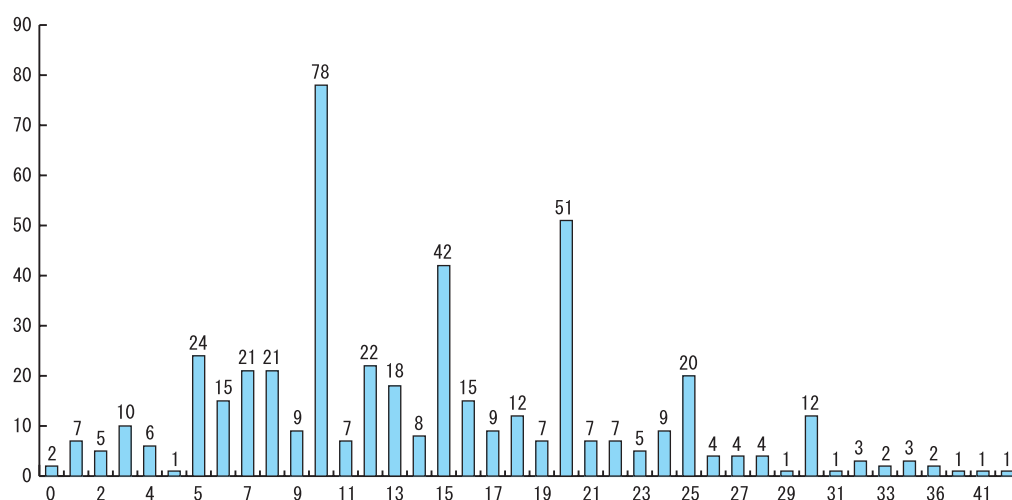
「昇格や昇級にキャリアパスを考慮していますか」と尋ねて、「はい」と「いいえ」から選んでもらったところ、「はい」が51.6%、「いいえ」が41.4%であった（無回答7.1%）。過半数の保育所が考慮していた。

(10) 処遇システム

「キャリアパスを考慮した保育所職員の処遇システムが必要だと思いますか」と尋ねて、「はい」と「いいえ」から選んでもらったところ、「はい」が76.5%、「いいえ」が13.5%であった（無回答9.8%、複数回答0.2%）。必要性を感じている保育所長は75%を超えていた。それぞれの回答の理由を書いてもらったところ、「はい」に対する理由では、「質の向上・資質向上」「やる気・意欲・モチベーション」「優秀な人材の確保・育成」などに言及した回答が多かった。「いいえ」に対する理由では、園が小規模であることに言及している回答が見られた。

(11) 主任保育士

「主任保育士という役職をおいていますか」と尋ねて、「はい」と「いいえ」から選んでもらったところ、「はい」が97.3%、「いいえ」が2.5%であった（無回答0.2%）。主任になるまでの経験年数を尋ねたところ、平均は14.4年であった。分布を示したものが図I-3である。10年が最も多く、次いで20年、15年、5年の順であった。



図I-3 主任になるまでの経験年数の分布（人）

2. 回答した保育所長

(1) 経験年数

「認可保育所長としての通算勤務年数は何年ですか」と尋ねた。平均は12.9か月であった。分布を示したものが図 I-4 である。園長経験5年以内の者の回答が多かった。

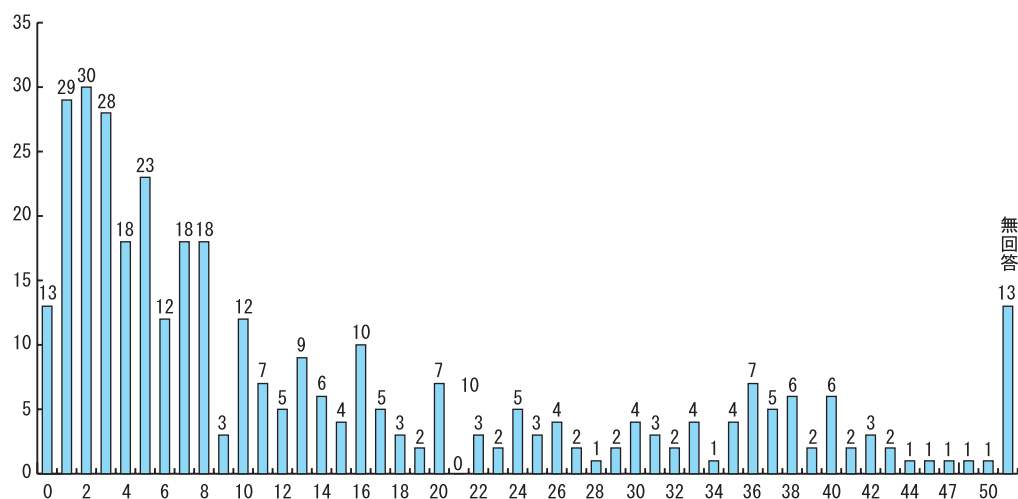


図 I-4 回答者の園長経験年数の分布 (人)

(2) 所有する資格

所有する資格・免許のすべてに○をつけてもらった結果が図 I-5 である。保育士資格と幼稚園教員免許を持っている者が多かった。

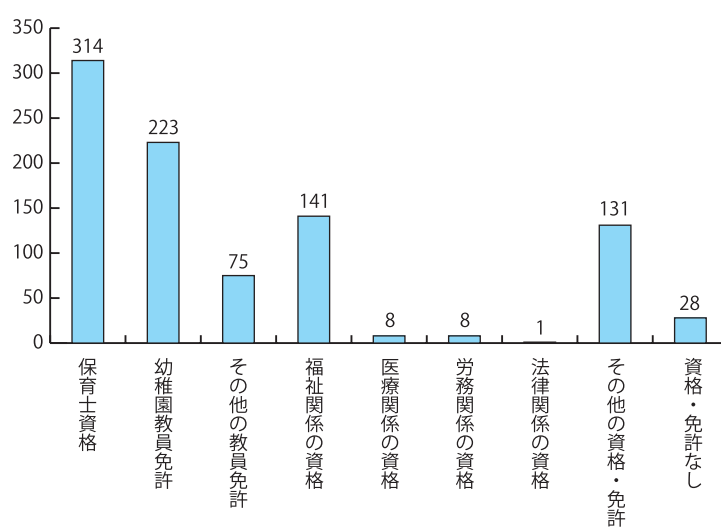


図 I-5 回答者の所有する資格・免許 (人)

(3) キャリアパスの理解

「これまで「キャリアパス」についてご存知でしたか」と尋ねて、「はい」と「いいえ」から選んでもらったところ、「はい」が54.1%、「いいえ」が40.2%であった（無回答5.7%）。「はい」を選んだ者に対して、その理解の程度について3択を求めた結果が図 I-6 である。自分なりに理解しているが66.7%と最も多く、他人に説明できるは10%にも満たなかった。保育所長に、職員に説明する力は、現段階ではないと言える。

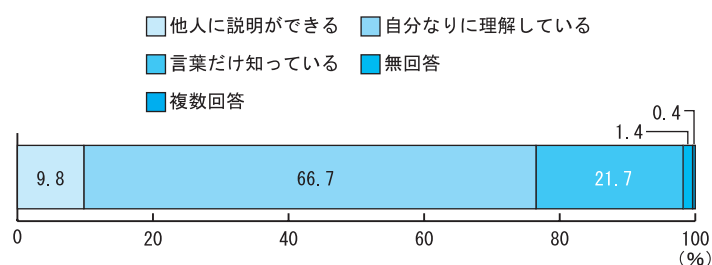


図 I-6 キャリアパスの理解の程度 (%)

3. 業務遂行の実態と理想

(1) 業務遂行の実態

「貴保育所において、次の各業務を実際に行っているのは、おおむね何年の経験をもつ保育士ですか」と尋ね、「1. 1年未満」「2. 1年以上3年未満」「3. 3年以上5年未満」「4. 5年以上7年未満」「5. 7年以上10年未満」「6. 10年以上15年未満」「7. 15年以上」「8. 該当無し（業務を行っていない場合等）」の8つの選択肢を提示した。回答の中には、選択肢を使わずに「全職員」や「主任」など、言葉でその範囲や役職を書いたもの（A）や、選択肢の番号を使って、「1～7」や「2～5」など、番号の範囲を複数指定したもの（B）があった。このうち、Bについては、番号の最も低い値を採用した。例えば、「1～7」であれば「1」、「2～5」であれば「2」とした。Aについては、「その他」として一括処理した。各割合を示したものが、表 I-3 である。横に見て、最も大きな値のところでフォントを変えた。

「子どもの生命の保持に関すること」「基本的生活習慣の支援に関すること」は1年未満が最も多かった。「保育室や保育所内の環境を整備すること」「指導計画を作成すること」は「1年以上3年未満」が多かった。「子どもの情緒の安定を図ること」「子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること」「遊具の安全管理を行うこと」は「3年以上5年未満」が多かった。

「3歳以上のクラス主任」「障害のある子どもの保育に関すること」は「7年以上10年未満」が多かった。「3歳未満児のクラス主任」が「10年以上15年未満」が多かった。

上記以外の業務は、「15年以上」の回答が最も多かった。

表 I-3 各業務を実際に行っている保育士のおおむねの勤務年数（％）

		1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 7 年未満	7 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上	該当無し	無回答	その他（全 職員等）
1	乳児クラスの主任	2.2	5.9	11.6	12.5	16.7	18.8	25.9	2.9	3.1	0.4
2	3 歳未満児クラスの主任	2.5	8.6	16.7	13.7	17.1	19.2	18.4	0.8	2.5	0.4
3	3 歳以上児クラスの主任	1.2	5.1	17.5	15.1	19.6	18.4	15.9	3.5	3.3	0.4
4	子どもの情緒の安定を図ること	11.8	13.1	16.1	14.5	12.2	11.6	11.2	1.8	5.1	2.7
5	子どもの生命の保持を図ること	14.9	14.1	13.7	12.2	11.4	8.8	14.9	1.6	5.3	3.1
6	（食事や排泄、着替えなど）子どもの基本的 生活習慣の支援をすること	21.6	21.2	16.7	8.4	8.8	7.3	7.3	1.0	5.3	2.7
7	子どもが様々なことに興味や関心を持 つような活動を提供すること	14.3	18.6	21.4	12.0	12.4	5.3	6.9	1.0	5.5	2.7
8	（壁面や季節に応じた装飾、掃除など）保 育室や保育所内の環境を整備すること	21.8	26.5	15.9	8.0	7.5	5.9	4.7	1.2	5.7	2.9
9	遊具の安全管理を行うこと	12.7	12.2	18.4	10.2	12.4	9.4	15.9	1.6	5.1	2.2
10	子どもの病気やケガへの対応を判断す ること	2.4	7.3	13.1	8.8	13.7	15.7	32.5	1.2	4.1	1.2
11	行政や地域の関係各所との連絡調整を 行うこと	0.6	1.8	4.5	7.3	11.6	17.8	44.1	7.3	4.3	0.8
12	指導計画を作成すること	11.6	17.6	15.3	11.0	11.8	10.2	14.9	1.0	4.5	2.2
13	指導計画の確認や助言を行うこと	1.0	1.6	8.0	9.6	16.9	18.2	39.6	0.6	3.7	0.8
14	おたより等の保護者向けの書類を作成 すること	11.4	13.1	14.3	8.8	11.8	12.2	20.6	1.8	4.5	1.6
15	職員間の連絡調整等を行うこと	2.5	2.9	9.2	9.2	14.9	17.8	38.6	0.4	3.7	0.6
16	実習生の指導を行うこと	1.4	3.3	11.2	11.6	13.7	15.3	37.6	0.8	4.5	0.6
17	新人保育士の指導を行うこと	0.4	4.3	11.0	12.7	16.5	17.8	32.4	0.6	3.9	0.4
18	新人以外の保育士に指導したり、相談 に乗れること	0.2	2.5	5.5	11.4	12.7	22.0	41.2	0.2	3.7	0.6
19	保護者からの相談への対応に関するこ と	1.6	3.9	9.0	10.6	12.7	18.0	39.2	0.4	3.7	0.8
20	保護者からの苦情やクレームへの対応 に関すること	0.6	2.0	3.1	6.7	10.0	17.8	52.5	2.4	3.7	1.2
21	障害のある子どもの保育に関すること	3.1	5.9	14.9	14.9	16.9	16.5	13.9	7.8	5.3	0.8
22	地域の保護者等に対する子育て支援	1.2	3.7	5.7	8.0	12.7	17.5	35.1	10.4	5.3	0.4
23	小学校との連携に関すること	1.0	2.4	6.9	11.0	12.9	19.4	34.7	6.9	4.1	0.8
24	研修会や学会などでの発表を行うこと	2.9	2.9	9.4	9.2	14.7	14.3	21.2	18.0	6.5	0.8
25	保育士の自己評価について確認や助言 を行うこと	0.4	1.2	3.7	5.5	12.0	16.9	51.4	4.3	3.9	0.8

この表では、横に見て最も大きな値に注目した。しかしながら、例えば、「おたより等保護者向けの書類を作成すること」は「15年以上」が最も大きな値であるが、それまでの経験年数の者がこの業務を全く行っていないわけではない。「3 年以上 5 年未満」は14.3％と、比較的大きな値である。また10％を超えている経験年数という視点で見ると、「1 年未満」「1 年以上 3 年未満」「7 年以上10年未満」「10年以上15年未満」も該当した。そこで最も大きな値に注目するだけでは、どの程度の経験年数の保育士が各業務を実際に行っているのかという判断は困

難である。

表 I-4 は、各値を累積的に算出したものである。「1 年未満」の値は、表 I-3 と同じである。「Σ 1 年以上 3 年未満」は、表 I-3 の「1 年未満」の値と「1 年以上 3 年未満」の値を合計した値を示している。同様に、「Σ 3 年以上 5 年未満」は、「1 年未満」「1 年以上 3 年未満」「3 年以上 5 年未満」の値を合計した値である。50%を超えた値のところでフォントを変えた。

表 I-4 各業務を実際に行っている保育士の勤務年数に関する蓄積された割合（％）

		1 年未満	Σ 1 年以上 3 年未満	Σ 3 年以上 5 年未満	Σ 5 年以上 7 年未満	Σ 7 年以上 10 年未満	Σ 10 年以上 15 年未満	Σ 15 年以上
1	乳児クラスの主担任	2.2	8.0	19.6	32.2	48.8	67.6	93.5
2	3 歳未満児クラスの主担任	2.5	11.2	27.8	41.6	58.6	77.8	96.3
3	3 歳以上児クラスの主担任	1.2	6.3	23.7	38.8	58.4	76.9	92.7
4	子どもの情緒の安定を図ること	11.8	24.9	41.0	55.5	67.6	79.2	90.4
5	子どもの生命の保持を図ること	14.9	29.0	42.7	54.9	66.3	75.1	90.0
6	(食事や排泄、着替えなど)子どもの基本的 生活習慣の支援をすること	21.6	42.7	59.4	67.8	76.5	83.7	91.0
7	子どもが様々なことに興味や関心を持 つような活動を提供すること	14.3	32.9	54.3	66.3	78.6	83.9	90.8
8	(壁面や季節に応じた装飾、掃除など)保 育室や保育所内の環境を整備すること	21.8	48.2	64.1	72.2	79.6	85.5	90.2
9	遊具の安全管理を行うこと	12.7	24.9	43.3	53.5	65.9	75.3	91.2
10	子どもの病気やケガへの対応を判断す ること	2.4	9.6	22.7	31.6	45.3	61.0	93.5
11	行政や地域の関係各所との連絡調整を 行うこと	0.6	2.4	6.9	14.1	25.7	43.5	87.6
12	指導計画を作成すること	11.6	29.2	44.5	55.5	67.3	77.5	92.4
13	指導計画の確認や助言を行うこと	1.0	2.5	10.6	20.2	37.1	55.3	94.9
14	おたより等の保護者向けの書類を作成 すること	11.4	24.5	38.8	47.6	59.4	71.6	92.2
15	職員間の連絡調整等を行うこと	2.5	5.5	14.7	23.9	38.8	56.7	95.3
16	実習生の指導を行うこと	1.4	4.7	15.9	27.5	41.2	56.5	94.1
17	新人保育士の指導を行うこと	0.4	4.7	15.7	28.4	44.9	62.7	95.1
18	新人以外の保育士に指導したり、相談 に乗れること	0.2	2.7	8.2	19.6	32.4	54.3	95.5
19	保護者からの相談への対応に関するこ と	1.6	5.5	14.5	25.1	37.8	55.9	95.1
20	保護者からの苦情やクレームへの対応 に関すること	0.6	2.5	5.7	12.4	22.4	40.2	92.7
21	障害のある子どもの保育に関すること	3.1	9.0	23.9	38.8	55.7	72.2	86.1
22	地域の保護者等に対する子育て支援	1.2	4.9	10.6	18.6	31.4	48.8	83.9
23	小学校との連携に関すること	1.0	3.3	10.2	21.2	34.1	53.5	88.2
24	研修会や学会などでの発表を行うこと	2.9	5.9	15.3	24.5	39.2	53.5	74.7
25	保育士の自己評価について確認や助言 を行うこと	1.6	1.6	5.3	10.8	22.7	39.6	91.0

「基本的生活習慣を支援すること」「子どもが様々なことに興味を持つような活動を提供すること」「保育室や保育所内の環境を整備すること」の3つは、「Σ 3年以上5年未満」で50%を超えた。このことは、50%以上の保育所で、これらの業務は経験年数がおおむね5年未満の保育士が実際に行っていると判断されたことを示している。

同様に、「子どもの情緒の安定を図ること」「子どもの生命の保持を図ること」「遊具の安全管理を行うこと」「指導計画を作成すること」は、50%以上の保育所で、経験年数が7年未満の保育士が実際に行っていると判断された。「3歳未満児のクラス主任」「3歳以上児のクラス主任」「おたより等の保護者向けの書類を作成すること」「障害のある子どもの保育に関すること」は、50%以上の保育所で、経験年数が10年未満の保育士が実際に行っていると判断された。

「乳児保育の主担当」「子どもの病気やケガへの対応を判断すること」「指導計画の確認や助言を行うこと」「職員間の連絡調整等を行うこと」「新人実習生の指導を行うこと」「新人保育士の指導を行うこと」「新人以外の保育士に指導したり、相談に乗れること」「保護者からの相談への対応に関すること」「小学校との連携に関すること」「研修会や学会での発表を行うこと」は、50%以上の保育所で、経験年数が15年未満の保育士が実際に行っていると判断された。

「行政や地域の関係各所との連絡調整を行うこと」「保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること」「地域の保護者等に対する子育て支援」「保育士の自己評価について確認や助言を行うこと」は、50%以上の保育所で、経験年数が15年以上の保育士が実際に行っていると判断された。

(2) 業務遂行の理想

「貴保育所において、次の各業務を、理想としては、おおむね何年の経験をもつ保育士に任せたいですか」として、先と同じ8つの選択肢を提示した。表 I-3 と同様に、選択肢の番号を使って、「1～7」や「2～5」など、番号の範囲を複数指定したものは、番号の最も低い値を採用した。表 I-5 は各選択肢が選ばれた割合を示したものであり、横に見て、最も大きな値のところでフォントを変えた。

「保育室や保育所内の環境を整備すること」は「1年以上3年未満」が最も大きな値であった。「子どもの基本的生活習慣の支援をすること」「子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること」「遊具の安全管理を行うこと」「指導計画を作成すること」「おたより等の保護者向けの書類を作成すること」は「3年以上5年未満」が最も大きな値であった。

「3歳未満児のクラス主任」「3歳以上児のクラス主任」「子どもの情緒の安定を図ること」「障害のある子どもの保育に関すること」は「5年以上7年未満」が最も大きな値であった。「子どもの生命の保持を図ること」「子どもの病気やケガへの対応を判断すること」「研究会は学会などで発表を行うこと」は「7年以上10年未満」が最も大きな値であった。

表Ⅰ－５ 各業務を理想として任せたい保育士のおおむねの勤務年数（％）

		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 7年未満	7年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	該当無し	無回答	その他（全 職員等）
1	乳児クラスの主担任	1.2	1.6	11.2	20.2	22.2	22.9	14.1	2.0	4.3	0.4
2	3歳未満児クラスの主担任	0.8	4.5	14.9	25.9	23.1	18.2	7.5	0.4	4.3	0.4
3	3歳以上児クラスの主担任	0.4	4.3	19.6	29.0	21.0	11.2	6.1	3.1	4.9	0.4
4	子どもの情緒の安定を図ること	9.0	10.4	15.5	19.2	17.1	11.4	9.0	0.8	5.9	1.8
5	子どもの生命の保持を図ること	11.6	11.6	14.7	15.1	15.5	11.8	11.2	1.0	5.9	1.8
6	（食事や排泄、着替えなど）子どもの基本的生活習慣の支援をすること	18.0	18.2	19.4	13.1	12.7	6.7	3.9	0.6	5.3	2.0
7	子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること	14.7	18.4	22.5	15.9	13.5	3.9	2.9	0.6	5.5	2.0
8	（壁面や季節に応じた装飾、掃除など）保育室や保育所内の環境を整備すること	23.3	25.5	18.6	12.0	7.6	2.9	1.6	0.8	5.5	2.2
9	遊具の安全管理を行うこと	11.6	13.3	22.0	17.5	12.9	10.0	5.5	0.6	5.3	1.4
10	子どもの病気やケガへの対応を判断すること	4.1	6.5	14.1	17.8	18.2	16.3	16.3	1.0	4.7	1.0
11	行政や地域の関係各所との連絡調整を行うこと	0.6	1.0	6.5	12.4	15.9	25.3	30.0	3.3	4.7	0.4
12	指導計画を作成すること	8.4	16.1	17.6	12.4	14.7	14.7	8.8	0.4	5.1	1.8
13	指導計画の確認や助言を行うこと	0.8	3.3	7.8	15.5	18.6	24.9	23.5	0.6	4.9	0.4
14	おたより等の保護者向けの書類を作成すること	7.3	14.5	15.5	14.1	15.3	15.5	10.6	0.8	5.3	1.2
15	職員間の連絡調整等を行うこと	2.5	2.9	12.0	14.5	17.1	24.7	20.8	0.4	4.7	0.4
16	実習生の指導を行うこと	1.6	2.9	11.4	18.8	18.8	21.8	18.8	0.6	5.1	0.2
17	新人保育士の指導を行うこと	0.4	4.5	11.4	17.3	19.2	21.8	19.8	0.6	4.9	0.2
18	新人以外の保育士に指導したり、相談に乗れること	0.2	1.2	5.7	17.1	17.6	26.1	27.1	0.2	4.7	0.2
19	保護者からの相談への対応に関すること	1.0	2.0	7.6	15.5	19.6	19.4	29.6	0.4	4.5	0.4
20	保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること	1.0	0.8	4.7	10.6	15.3	23.7	37.6	1.2	4.7	0.4
21	障害のある子どもの保育に関すること	1.8	4.9	14.7	21.2	17.8	19.8	9.0	4.9	5.3	0.6
22	地域の保護者等に対する子育て支援	0.8	2.2	9.2	14.9	18.4	22.5	20.0	6.3	5.3	0.4
23	小学校との連携に関すること	0.8	1.8	9.8	17.3	19.2	20.0	20.6	4.9	5.3	0.4
24	研修会や学会などでの発表を行うこと	1.6	3.5	11.4	15.3	21.0	16.7	23.7	11.2	5.1	0.6
25	保育士の自己評価について確認や助言を行うこと	0.4	1.0	2.9	8.4	14.3	27.3	37.6	2.9	4.7	0.4

「乳児クラスの主担任」「職員間の連絡調整等を行うこと」「実習生の指導を行うこと」「新人保育士の指導を行うこと」「新人以外の保育士に指導したり、相談に乗れること」「地域の保護者等に対する子育て支援」は「10年以上15年未満」が最も大きな値であった。残り6つの業務は「15年以上」が最も大きな値であった。

表Ⅰ－6は、各業務を理想として任せたい保育士の勤務年数に関する累積された割合を示したものである。50%を超えた値のところでフォントを変えた。

表Ⅰ－6 各業務を理想として任せたい保育士の勤務年数に関する累積された割合（％）

		1年未満	Σ 1年以上 3年未満	Σ 3年以上 5年未満	Σ 5年以上 7年未満	Σ 7年以上 10年未満	Σ 10年以上 15年未満	Σ 15年以上
1	乳児クラスの主担任	1.2	2.7	13.9	34.1	56.3	79.2	93.3
2	3歳未満児クラスの主担任	0.8	5.3	20.2	46.1	69.2	87.5	94.9
3	3歳以上児クラスの主担任	0.4	4.7	24.3	53.3	74.3	85.5	91.6
4	子どもの情緒の安定を図ること	9.0	19.4	34.9	54.1	71.2	82.5	91.6
5	子どもの生命の保持を図ること	11.6	23.1	37.8	52.9	68.4	80.2	91.4
6	(食事や排泄、着替えなど)子どもの基本的 生活習慣の支援をすること	18.0	36.3	55.7	68.8	81.6	88.2	92.2
7	子どもが様々なことに興味や関心を持 つような活動を提供すること	14.7	33.1	55.7	71.6	85.1	89.0	92.0
8	(壁面や季節に応じた装飾、掃除など)保 育室や保育所内の環境を整備すること	23.3	48.8	67.5	79.4	87.1	90.0	91.6
9	遊具の安全管理を行うこと	11.6	24.9	46.9	64.3	77.3	87.3	92.7
10	子どもの病気やケガへの対応を判断す ること	4.1	10.6	24.7	42.5	60.8	77.1	93.3
11	行政や地域の関係各所との連絡調整を 行うこと	0.6	1.6	8.0	20.4	36.3	61.6	91.6
12	指導計画を作成すること	8.4	24.5	42.2	54.5	69.2	83.9	92.7
13	指導計画の確認や助言を行うこと	0.8	4.1	12.0	27.5	46.1	71.0	94.5
14	おたより等の保護者向けの書類を作成 すること	7.3	21.8	37.3	51.4	66.7	82.2	92.7
15	職員間の連絡調整等を行うこと	2.5	5.5	17.5	32.0	49.0	73.7	94.5
16	実習生の指導を行うこと	1.6	4.5	15.9	34.7	53.5	75.3	94.1
17	新人保育士の指導を行うこと	0.4	4.9	16.3	33.5	52.7	74.5	94.3
18	新人以外の保育士に指導したり、相談 に乗れること	0.2	1.4	7.1	24.1	41.8	67.8	94.9
19	保護者からの相談への対応に関するこ と	1.0	2.9	10.6	26.1	45.7	65.1	94.7
20	保護者からの苦情やクレームへの対応 に関すること	1.0	1.8	6.5	17.1	32.4	56.1	93.7
21	障害のある子どもの保育に関すること	1.8	6.7	21.4	42.5	60.4	80.2	89.2
22	地域の保護者等に対する子育て支援	0.8	2.9	12.2	27.1	45.5	68.0	88.0
23	小学校との連携に関すること	0.8	2.5	12.4	29.6	48.8	68.8	89.4
24	研修会や学会などでの発表を行うこと	1.6	5.1	16.5	31.8	52.7	69.4	83.1
25	保育士の自己評価について確認や助言 を行うこと	0.4	1.4	4.3	12.7	27.1	54.3	92.0

「子どもの基本的生活習慣の支援をすること」「子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること」「保育室や保育所内の環境を整備すること」は、「Σ 3年以上5年未満」で50%を超えた。50%以上の保育所で、これらの業務は、経験年数が5年未満の保育士に理想として任せたいと判断された。「3歳以上児クラスの主担任」「子どもの情緒の安定を図ること」「子どもの生命の保持を図ること」「遊具の安全管理を行うこと」「指導計画等の書類を作成すること」「おたより等の保護者向けの書類を作成すること」は「Σ 5年以上7年未満」で50%

を超えた。50%以上の保育所で、これらの業務は、経験年数が7年未満の保育士に理想として任せたいと判断された。

「乳児クラスの主担任」「3歳未満児クラスの主担任」「子どもの病気やケガへの対応を判断すること」「実習生の指導を行うこと」「新人保育士の指導を行うこと」「障害のある子どもの保育に関すること」「研修会や学会などでの発表を行うこと」は、「Σ7年以上10年未満」で50%を超えた。50%以上の保育所で、これらの業務は、経験年数が10年未満の保育士に理想として任せたいと判断された。残りの9つの業務は、「Σ10年以上15年未満」で50%を超えた。50%以上の保育所で、これらの業務は、経験年数が15年未満の保育士に理想として任せたいと判断された。

(3) 実際と理想の違い

表I-7は、表4と表6を比較したものである。数値はすべて再掲である。14の業務では、実際に行っている年齢と理想として任せたい年齢で50%を超えた年齢は同じであった。これに対して、11の業務では、理想として任せたい年齢の方が実際に行っている年齢よりも経験年数が若い方に50%を超えた年齢が偏っていた。その11の業務は、次の業務である。

「乳児クラスの主担任」

「3歳以上児クラスの主担任」

「子どもの病気やケガへの対応を判断すること」

「行政や地域の関係各所との連絡調整を行うこと」

「おたより等の保護者向けの書類を作成すること」

「実習生の指導を行うこと」

「新人保育士の指導を行うこと」

「保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること」

「地域の保護者等に対する子育て支援」

「研修会や学会などでの発表を行うこと」

「保育士の自己評価について確認や助言を行うこと」

これらの業務は、実際と理想に乖離がある業務である。保育所長は、より経験が少ない保育士に、これらの業務を任せたいと思っているが、そうならないのが現実である。

表Ⅰ－７ 実際〔表Ⅰ－４〕と理想〔表Ⅰ－６〕の比較（％）

			1 年未満	Σ 1 年以上 3 年未満	Σ 3 年以上 5 年未満	Σ 5 年以上 7 年未	Σ 7 年以上 10 年未満	Σ 10 年以上 15 年未満	Σ 15 年以上
1	乳児クラスの主担任	実際	2.2	8.0	19.6	32.2	48.8	67.6	93.5
		理想	1.2	2.7	13.9	34.1	56.3	79.2	93.3
2	3 歳未満児クラスの主担任	実際	2.5	11.2	27.8	41.6	58.6	77.8	96.3
		理想	0.8	5.3	20.2	46.1	69.2	87.5	94.9
3	3 歳以上児クラスの主担任	実際	1.2	6.3	23.7	38.8	58.4	76.9	92.7
		理想	0.4	4.7	24.3	53.3	74.3	85.5	91.6
4	子どもの情緒の安定を図ること	実際	11.8	24.9	41.0	55.5	67.6	79.2	90.4
		理想	9.0	19.4	34.9	54.1	71.2	82.5	91.6
5	子どもの生命の保持を図ること	実際	14.9	29.0	42.7	54.9	66.3	75.1	90.0
		理想	11.6	23.1	37.8	52.9	68.4	80.2	91.4
6	(食事や排泄、着替えなど)子どもの基本的生活習慣の支援をすること	実際	21.6	42.7	59.4	67.8	76.5	83.7	91.0
		理想	18.0	36.3	55.7	68.8	81.6	88.2	92.2
7	子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること	実際	14.3	32.9	54.3	66.3	78.6	83.9	90.8
		理想	14.7	33.1	55.7	71.6	85.1	89.0	92.0
8	(壁面や季節に応じた装飾、掃除など)保育室や保育所内の環境を整備すること	実際	21.8	48.2	64.1	72.2	79.6	85.5	90.2
		理想	23.3	48.8	67.5	79.4	87.1	90.0	91.6
9	遊具の安全管理を行うこと	実際	12.7	24.9	43.3	53.3	65.9	75.3	91.2
		理想	11.6	24.9	46.9	64.3	77.3	87.3	92.7
10	子どもの病気やケガへの対応を判断すること	実際	2.4	9.6	22.7	31.6	45.3	61.0	93.5
		理想	4.1	10.6	24.7	42.5	60.8	77.1	93.3
11	行政や地域の関係各所との連絡調整を行うこと	実際	0.6	2.4	6.9	14.1	25.7	43.5	87.6
		理想	0.6	1.6	8.0	20.4	36.3	61.6	91.6
12	指導計画を作成すること	実際	11.6	29.2	44.5	55.5	67.3	77.5	92.4
		理想	8.4	24.5	42.2	54.5	69.2	83.9	92.7
13	指導計画の確認や助言を行うこと	実際	1.0	2.5	10.6	20.2	37.1	55.3	94.9
		理想	0.8	4.1	12.0	27.5	46.1	71.0	94.5
14	おたより等の保護者向けの書類を作成すること	実際	11.4	24.5	38.8	47.6	59.4	71.6	92.2
		理想	7.3	21.8	37.3	51.4	66.7	82.2	92.7
15	職員間の連絡調整等を行うこと	実際	2.5	5.5	14.7	23.9	38.8	56.7	95.3
		理想	2.5	5.5	17.5	32.0	49.0	73.7	94.5
16	実習生の指導を行うこと	実際	1.4	4.7	15.9	27.5	41.2	56.5	94.1
		理想	1.6	4.5	15.9	34.7	53.5	75.3	94.1
17	新人保育士の指導を行うこと	実際	0.4	4.7	15.7	28.4	44.9	62.7	95.1
		理想	0.4	4.9	16.3	33.5	52.7	74.5	94.3
18	新人以外の保育士に指導したり、相談に乗れること	実際	0.2	2.7	8.2	19.6	32.4	54.3	95.5
		理想	0.2	1.4	7.1	24.1	41.8	67.8	94.9
19	保護者からの相談への対応に関すること	実際	1.6	5.5	14.5	25.1	37.8	55.9	95.1
		理想	1.0	2.9	10.6	26.1	45.7	65.1	94.7
20	保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること	実際	0.6	2.5	5.7	12.4	22.4	40.2	92.7
		理想	1.0	1.8	6.5	17.1	32.4	56.1	93.7
21	障害のある子どもの保育に関すること	実際	3.1	9.0	23.9	38.8	55.7	72.2	86.1
		理想	1.8	6.7	21.4	42.5	60.4	80.2	89.2
22	地域の保護者等に対する子育て支援	実際	1.2	4.9	10.6	18.6	31.4	48.8	83.9
		理想	0.8	2.9	12.2	27.1	45.5	68.0	88.0
23	小学校との連携に関すること	実際	1.0	3.3	10.2	21.2	34.1	53.5	88.2
		理想	0.8	2.5	12.4	29.6	48.8	68.8	89.4
24	研修会や学会などでの発表を行うこと	実際	2.9	5.9	15.3	24.5	39.2	53.5	74.7
		理想	1.6	5.1	16.5	31.8	52.7	69.4	83.1
25	保育士の自己評価について確認や助言を行うこと	実際	0.4	1.6	5.3	10.8	22.7	39.6	91.0
		理想	0.4	1.4	4.3	12.7	27.1	54.3	92.0

4. キャリアパスの構築に向けて

(1) 保育所で必要な要素

「貴保育所で、保育士のキャリアパスを構築していくためには、次の各要素がどの程度必要になると思いますか」として、「必要ではない」から「必ず必要である」の5段階で評定を求めた。各選択肢が選ばれた割合を示したものが表 I-8 である。横に見て、最も大きな値のところでフォントを変えた。

すべての要素で「必要である」側に最も大きな値があった。「最低基準以上の職員配置」「給与に加算するための補助金」「研修を可能にする人的配置」「研修を可能にする補助金」「保育士確保の仕組み」は、「必ず必要である」が最も大きな値であった。「一般的な業務マニュアル」「行政や団体等が行うキャリアパスに対応した研修」「キャリアパスに対応した保育所運営費の改善」「運営費等の弾力的運用」「保育士だけでなく幼稚園教諭等、その他の職種のキャリアパス制度」「キャリアパスに対応した求人システム」は「必要である」、その他の要素は「どちらかと言えば必要である」が最も大きな値であった。

表 I-8 保育所で必要な要素として選ばれた割合（％）

		必要ではない	どちらかと言えば必要ではない	どちらかと言えば必要である	必要である	必ず必要である	無回答	複数回答
1	一般的な業務マニュアル	0.4	1.8	15.1	44.7	34.9	3.1	0.0
2	最低基準以上の職員配置	0.0	0.8	8.8	37.5	50.8	2.2	0.0
3	保育士の上位資格	4.1	9.8	38.2	32.7	10.2	4.9	0.0
4	保育士に付随する認定資格（乳児保育、保育相談等）	4.3	12.2	42.7	30.2	6.9	3.3	0.4
5	一般的なキャリアパスモデル	2.5	6.9	44.9	32.0	9.6	4.1	0.0
6	給与に加算するための補助金	0.2	0.4	10.4	37.8	49.0	2.2	0.0
7	行政や団体等が行うキャリアパスに対応した研修	1.0	1.6	21.4	52.2	20.6	3.3	0.0
8	研修を可能にする人的配置	0.2	0.8	9.4	43.3	43.9	2.4	0.0
9	研修を可能にする補助金	0.2	0.6	10.4	38.8	47.1	2.9	0.0
10	キャリアパスに対応した保育所運営費の改善	0.6	0.4	11.4	43.7	40.2	3.7	0.0
11	運営費等の弾力的運用	0.2	1.8	13.9	44.9	35.7	3.1	0.4
12	保育士だけでなく、幼稚園教諭等、その他の職種のキャリアパス制度	2.4	3.9	36.3	39.0	13.7	4.5	0.2
13	保育士確保の仕組み	0.4	1.2	15.9	36.9	42.9	2.7	0.0
14	キャリアパスに対応した求人システム	3.5	5.7	29.2	38.4	19.4	3.7	0.0
15	その他	0.2	0.4	0.6	0.6	2.2	96.1	0.0

(2) 国や自治体に求められる要素

「国や自治体が、保育士のキャリアパスを構築していくためには、次の各要素がどの程度必要になると思いますか」として、5段階で評定を求めた。各選択肢が選ばれた割合を示したものが表Ⅰ－9である。横に見て、最も大きな値のところでフォントを変えた。いずれの要素も、「必ず必要である」、あるいは「必要である」という回答が最もであった。「必ず必要である」が最も大きな値であった要素は、次の7つであった。

「最低基準以上の職員配置」

「給与に加算するための補助金」

「研修を可能にする人的配置」

「研修を可能にする補助金」

「キャリアパスに対応した保育所運営費の改善」

「運営費等の弾力的運用」

「保育士確保の仕組み」

表Ⅰ－9 国や自治体に求められる要素として選ばれた割合（％）

		必要ではない	どちらかと言え ば必要ではない	どちらかと言え ば必要である	必要である	必ず必要である	無回答	複数回答
1	一般的な業務マニュアル	0.8	1.4	15.3	43.1	34.5	4.9	0.0
2	最低基準以上の職員配置	0.0	0.6	5.3	29.8	60.8	3.5	0.0
3	保育士の上位資格	2.5	5.7	28.4	37.1	21.2	5.1	0.0
4	保育士に付随する認定資格（乳児保育、 保育相談等）	2.2	7.5	29.0	38.8	17.1	5.5	0.0
5	一般的なキャリアパスモデル	2.0	4.3	27.8	42.5	17.6	5.5	0.2
6	給与に加算するための補助金	0.0	0.2	5.5	30.2	60.2	3.9	0.0
7	行政や団体等が行うキャリアパスに対 応した研修	0.4	1.0	12.9	43.5	37.5	4.7	0.0
8	研修を可能にする人的配置	0.0	0.8	6.3	34.9	53.5	4.5	0.0
9	研修を可能にする補助金	0.0	0.4	5.3	30.0	60.2	4.1	0.0
10	キャリアパスに対応した保育所運営費 の改善	0.2	0.2	7.1	33.3	54.9	4.3	0.0
11	運営費等の弾力的運用	0.2	0.6	10.6	35.5	48.0	4.9	0.2
12	保育士だけでなく、幼稚園教諭等、そ の他の職種のキャリアパス制度	2.0	2.7	26.7	41.4	21.4	5.7	0.2
13	保育士確保の仕組み	0.4	1.0	12.2	31.8	50.2	4.5	0.0
14	キャリアパスに対応した求人システム	2.2	3.9	20.4	38.8	29.6	5.1	0.0
15	その他	0.4	0.0	1.0	2.4	3.5	92.7	0.0

(3) 保育所と国や自治体の比較

表Ⅰ－10は、表Ⅰ－8と表Ⅰ－9を比較したものである。「一般的な業務マニュアル」を除き、すべての要素で「国や自治体」の方が、「必ず必要である」の値が大きくなっている（5段階評定で平均値を比較すると有意差がある）。「保育士の上位資格」「保育士に付随する認定資格（乳児保育、保育相談等）」「一般的なキャリアパスモデル」「キャリアパスに対応した保育所運営費の改善」「運営費等の弾力的運用」では顕著な差が見られた。

表Ⅰ－10 保育所〔表－8〕と国や自治体〔表－9〕の比較（％）

		レベル	必要ではない	どちらかと言えば必要ではない	どちらかと言えば必要である	必要である	必ず必要である	無回答
1	一般的な業務マニュアル	保育所	0.4	1.8	15.1	44.7	34.9	3.1
		国・自治体	0.8	1.4	15.3	43.1	34.5	4.9
2	最低基準以上の職員配置	保育所	0.0	0.8	8.8	37.5	50.8	2.2
		国・自治体	0.0	0.6	5.3	29.8	60.8	3.5
3	保育士の上位資格	保育所	4.1	9.8	38.2	32.7	10.2	4.9
		国・自治体	2.5	5.7	28.4	37.1	21.2	5.1
4	保育士に付随する認定資格（乳児保育、保育相談等）	保育所	4.3	12.2	42.7	30.2	6.9	3.3
		国・自治体	2.2	7.5	29.0	38.8	17.1	5.5
5	一般的なキャリアパスモデル	保育所	2.5	6.9	44.9	32.0	9.6	4.1
		国・自治体	2.0	4.3	27.8	42.5	17.6	5.5
6	給与に加算するための補助金	保育所	0.2	0.4	10.4	37.8	49.0	2.2
		国・自治体	0.0	0.2	5.5	30.2	60.2	3.9
7	行政や団体等が行うキャリアパスに対応した研修	保育所	1.0	1.6	21.4	52.2	20.6	3.3
		国・自治体	0.4	1.0	12.9	43.5	37.5	4.7
8	研修を可能にする人的配置	保育所	0.2	0.8	9.4	43.3	43.9	2.4
		国・自治体	0.0	0.8	6.3	34.9	53.5	4.5
9	研修を可能にする補助金	保育所	0.2	0.6	10.4	38.8	47.1	2.9
		国・自治体	0.0	0.4	5.3	30.0	60.2	4.1
10	キャリアパスに対応した保育所運営費の改善	保育所	0.6	0.4	11.4	43.7	40.2	3.7
		国・自治体	0.2	0.2	7.1	33.3	54.9	4.3
11	運営費等の弾力的運用	保育所	0.2	1.8	13.9	44.9	35.7	3.1
		国・自治体	0.2	0.6	10.6	35.5	48.0	4.9
12	保育士だけでなく、幼稚園教諭等、その他の職種のキャリアパス制度	保育所	2.4	3.9	36.3	39.0	13.7	4.5
		国・自治体	2.0	2.7	26.7	41.4	21.4	5.7
13	保育士確保の仕組み	保育所	0.4	1.2	15.9	36.9	42.9	2.7
		国・自治体	0.4	1.0	12.2	31.8	50.2	4.5
14	キャリアパスに対応した求人システム	保育所	3.5	5.7	29.2	38.4	19.4	3.7
		国・自治体	2.2	3.9	20.4	38.8	29.6	5.1

Ⅱ. 保育士編の分析

1,850票の調査票が回収された。

1. 回答した保育士

(1) 保育士資格の取得方法

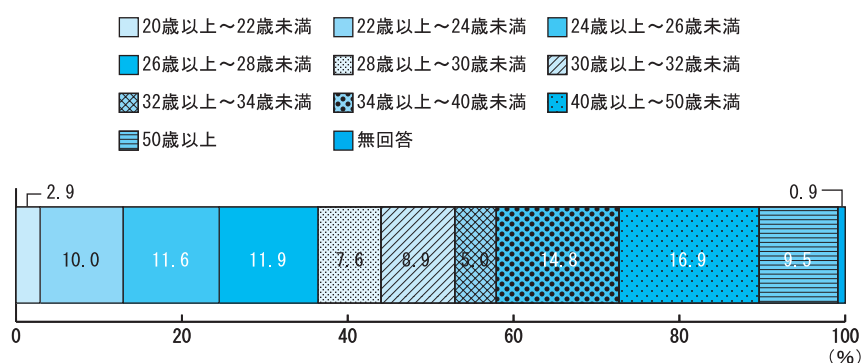
「保育士資格の取得方法について、いずれかに○をつけて下さい」として、「養成校」と「試験」の選択肢を提示した。その結果、「養成校」は93.3%、「試験」は5.2%であった（無回答1.3%、複数回答0.2%）。

(2) 保育士としての勤務年数

「認可保育所（公営・民営）における保育士（正規職員）としての通算勤務年数は何年何ヶ月ですか」と尋ねた。44名が無回答であった（0年0か月の記入も無回答として処理した）。最低値は1か月、最大値は40年で、平均は9年6.6ヵ月であった。

(3) 年齢

「あなたの年齢について、該当する番号を1つだけ選んで○をつけて下さい」として、「1 20歳以上～22歳未満」「2 22歳以上～24歳未満」「3 24歳以上～26歳未満」「4 26歳以上～28歳未満」「5 28歳以上～30歳未満」「6 30歳以上～32歳未満」「7 32歳以上～34歳未満」「8 34歳以上～40歳未満」「9 40歳以上～50歳未満」「10 50歳以上」の10の選択肢を示した。その結果が、[図Ⅱ－1](#)である。40歳以上～50歳未満の回答者が最も多かった。



図Ⅱ－1 回答者の年齢の分布

(4) 保育士以外の職務経験

「保育士以外の職務経験はありますか」として、「あり」「なし」選択肢を提示した。また、「あ

る場合はその年数もお書き下さい」として年数を尋ねた。その結果、「あり」は24.5%、「なし」は74.8%であった（無回答0.7%）。「あり」の者が答えた年数の最小値は1ヵ月、最大値は25年で、平均は4.6年であった。

（５）他の認可保育所の経験

「現在の勤務先以外の認可保育所（公営・民営）において、保育士（正規職員）としての勤務経験はありますか、いずれかに○をつけて下さい。」として、「あり」「なし」選択肢を提示した。また、「ある場合はその年数もお書き下さい」として年数を尋ねた。その結果、「あり」は26.7%、「なし」は72.0%であった（複数回答0.1%、無回答1.2%）。「あり」の者が答えた年数の最小値は1ヵ月、最大値は32年で、平均は5.7年であった。

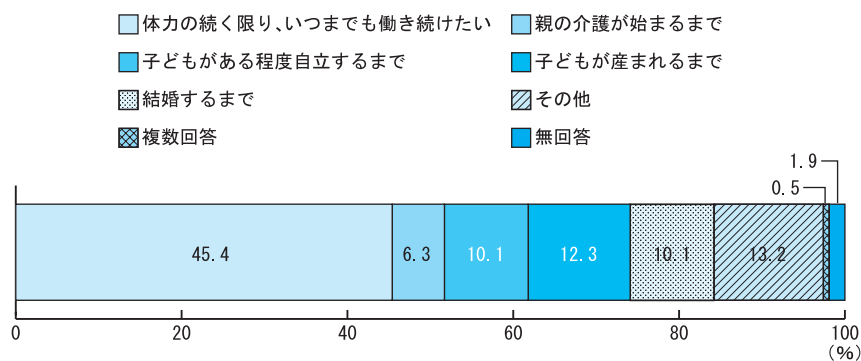
（６）配偶者と子ども

「現在、配偶者の有無について、いずれかに○をつけて下さい」として「はい」「いいえ」の選択肢を提示した。その結果、「はい」は39.7%、「いいえ」は59.5%であった（無回答0.8%）。

「あなたにはお子さんがおられますか、いずれかに○をつけて下さい」として「はい」「いいえ」の選択肢を提示した。その結果、「はい」は36.1%、「いいえ」は63.6%であった（無回答0.4%）。

（７）継続就労の希望

「将来的に保育士としていつまで働きたいですか、該当する番号を1つだけ選んで○をつけて下さい」として、「1 体力の続く限り、いつまでも働きたい」「2 親の介護が始まるまで」「3 子どもがある程度自立するまで」「4 子どもが産まれるまで」「5 結婚するまで」「6 その他」の選択肢を提示した。その結果が、図Ⅱ－2である。「体力の続く限りいつまでも働きたい」が最も多かった。



図Ⅱ－2 継続就労の希望の割合（％）

2. 通算勤務年数7年未満（A票）と7年以上（B票）の保育士の比較

保育士用の質問紙は、A票とB票の2種類であった。A票は、認可保育所での保育士（正規職員）としての通算勤務年数が7年未満の方用で、B票は、同年数が7年以上の方用であったが、質問内容は全く同じであった。

「V. あなた自身のことについてお尋ねします」という設問の中で、「認可保育所（公営・民営）における保育士（正規保育士）としての通算勤務年数は何年何ヶ月ですか」と尋ねていた。そこでA票、B票と整合性を確認したところ、回収されたA票のうち2票は91か月（7年7か月）と103か月（8年7か月）と、7年未満ではなかった。そこでこれらはB票として扱った。また回収されたB票のうち4票は31か月（2年7か月）、67か月（5年7か月）、82か月（6年10か月）、79か月（6年7か月）と7年以上ではなかった。そこでこれらはA票として扱った。最終的に分析対象となったのは、A票が908票、B票が942票で、合計1,850票であった。

（1）業務ができる程度

「あなたは次の各業務がどの程度できますか」として「1 できない」「2 教えてもらってできる」「3 自分自身の力でできる」「4 他の保育士を指導できる」「5 保育士の集団や組織、園全体をリードできる」の選択肢を提示し、該当する番号を1つだけ選んでもらった。表Ⅱ－1は、各選択肢が選ばれた割合を示したものである。横に見て、最も大きな値のフォントを変えた。

「乳児クラスの主担任」「3歳未満児クラスの主担任」「3歳以上児クラスの主担任」「子どもの病気やケガへの対応を判断すること」「保護者からの相談への対応に関すること」「保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること」「保育士の自己評価について確認や助言を行うこと」では、通算勤務年が7年未満の保育士（A票の回答者）は「教えてもらってできる」が最も大きな値であったが、7年以上の保育士（B票の回答者）は「自分自身の力でできる」が最も大きな値であった。

「（食事や排泄、着替えなど）子どもの基本的生活習慣の支援をすること」では、7年未満の保育士（A票の回答者）は「自分の力でできる」が最も大きな値であったが、7年以上の保育士（B票の回答者）は「他の保育士を指導できる」が最も大きな値であった。「指導計画の確認や助言を行うこと」では、7年未満の保育士（A票の回答者）は「教えてもらってできる」が最も大きな値であったが、7年以上の保育士（B票の回答者）は「他の保育士を指導できる」が最も大きな値であった。

経験年数が増えるにつれて、業務ができる程度が高くなることは、当然である。詳しく見ると、すべての業務で、「リードできる」、すなわち「5 保育士の集団や組織、園全体をリードできる」と、「他の保育士を指導」、すなわち「4 他の保育士を指導できる」の割合は、B票

回答者の方が多かった。

なお、2（経験年数）×5（選択肢）の χ^2 乗検定の結果は、すべて有意であった。

表Ⅱ－1 各業務ができる程度として選ばれた割合（％）

			できない	教えてもらって できる	自分の力で できる	他の保育士を 指導	リードできる	複数回答	無回答
1	乳児クラスの主担任	A	18.8	48.0	25.7	6.1	1.0	0.0	0.4
		B	2.2	19.6	38.3	32.9	5.9	0.1	0.8
2	3歳未満児クラスの主担任	A	11.3	41.2	39.4	6.9	0.9	0.0	0.2
		B	0.7	9.4	44.7	37.2	7.2	0.1	0.6
3	3歳以上児クラスの主担任	A	14.4	41.4	36.8	6.5	0.8	0.0	0.1
		B	2.0	13.4	43.5	32.6	7.6	0.0	0.8
4	子どもの情緒の安定を図ること	A	0.6	19.3	70.2	9.3	0.6	0.1	0.1
		B	0.1	3.3	53.7	36.9	5.4	0.2	0.3
5	子どもの生命の保持を図ること	A	0.6	19.2	69.6	9.5	1.0	0.1	0.1
		B	0.1	4.2	50.3	37.4	7.4	0.2	0.3
6	(食事や排泄、着替えなど)子どもの基本的 生活習慣の支援をすること	A	0.0	7.3	71.5	20.4	0.7	0.0	0.2
		B	0.1	1.1	37.8	53.3	7.4	0.1	0.2
7	子どもが様々なことに興味や関心を持 つような活動を提供すること	A	0.2	19.1	67.6	12.2	0.7	0.0	0.2
		B	0.1	3.0	50.4	39.4	6.8	0.1	0.2
8	(壁面や季節に応じた装飾、掃除など)保 育室や保育所内の環境を整備すること	A	0.3	10.1	67.7	20.6	1.0	0.1	0.1
		B	0.1	2.1	46.0	42.0	9.3	0.1	0.3
9	遊具の安全管理を行うこと	A	0.6	22.1	62.1	14.0	1.0	0.0	0.2
		B	0.1	8.1	48.0	34.8	8.7	0.1	0.2
10	子どもの病気やケガへの対応を判断す ること	A	1.9	55.0	34.1	7.9	0.7	0.3	0.1
		B	0.2	22.9	36.5	32.4	7.6	0.1	0.2
11	行政や地域の関係各所との連絡調整を 行うこと	A	33.5	56.2	8.5	0.8	0.4	0.2	0.4
		B	14.3	54.4	17.7	8.8	4.2	0.0	0.5
12	指導計画を作成すること	A	0.4	18.0	68.7	11.7	0.9	0.2	0.1
		B	0.2	3.9	50.3	38.5	6.7	0.1	0.2
13	指導計画の確認や助言を行うこと	A	15.6	38.3	35.2	10.0	0.6	0.0	0.2
		B	2.8	12.5	38.2	39.3	6.8	0.1	0.3
14	おたより等の保護者向けの書類を作成 すること	A	3.1	22.7	59.6	13.1	1.3	0.1	0.1
		B	0.4	11.7	44.2	35.8	7.6	0.1	0.2
15	職員間の連絡調整等を行うこと	A	8.0	30.2	50.6	9.3	1.5	0.0	0.4
		B	2.0	12.5	46.9	27.0	11.1	0.1	0.3
16	実習生の指導を行うこと	A	9.3	30.8	49.8	8.9	1.0	0.1	0.1
		B	0.6	7.2	51.6	32.8	7.2	0.1	0.4
17	新人保育士の指導を行うこと	A	13.7	35.5	40.6	9.1	0.8	0.0	0.3
		B	0.7	10.2	47.8	33.7	7.2	0.1	0.3
18	新人以外の保育士に指導したり、相談 に乗れること	A	18.0	32.4	42.1	6.4	0.8	0.2	0.2
		B	1.3	9.8	54.9	26.5	6.8	0.3	0.4
19	保護者からの相談への対応に関すること	A	1.4	51.7	40.2	5.5	0.9	0.2	0.1
		B	0.1	17.5	47.7	27.9	5.8	0.6	0.3
20	保護者からの苦情やクレームへの対応 に関すること	A	11.3	66.5	17.6	3.3	0.8	0.3	0.1
		B	2.7	38.3	33.9	18.9	5.4	0.5	0.3
21	障害のある子どもの保育に関すること	A	11.0	68.9	17.3	2.1	0.2	0.2	0.2
		B	2.0	47.0	32.7	14.8	2.8	0.3	0.4
22	地域の保護者等に対する子育て支援	A	27.0	59.7	11.5	1.0	0.4	0.0	0.4
		B	8.3	48.9	26.3	11.3	4.2	0.2	0.7
23	小学校との連携に関すること	A	33.7	54.6	9.6	1.3	0.6	0.0	0.2
		B	8.0	51.6	26.2	9.1	4.2	0.2	0.6
24	研修会や学会などでの発表を行うこと	A	33.1	48.2	17.3	0.9	0.2	0.0	0.2
		B	17.2	42.9	27.2	8.3	3.6	0.1	0.7
25	保育士の自己評価について確認や助言 を行うこと	A	29.1	41.6	26.3	2.0	0.4	0.1	0.4
		B	10.3	29.6	40.9	14.5	3.8	0.1	0.7

(2) 自信を持ってできる経験年数

「次の各業務を自信を持ってできるようになるには、おおむね何年の経験が必要だと思いますか」として、「1年未満」「1年以上3年未満」「3年以上5年未満」「5年以上7年未満」「7年以上10年未満」「10年以上15年未満」「15年以上」「該当無し」の選択肢を用意した。「該当無し」は、勤務先の保育所において業務を行っていない項目につけてもらうことにした。各選択肢が選ばれた割合を示したものが表Ⅱ－2である。横に見て、最も大きい値のところでフォントを変えた。

表Ⅱ－2 各業務を自信を持ってできる経験年数として選ばれた割合（％）

			1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 7年未満	7年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	該当無し	無回答	複数回答
1	乳児クラスの主担任	A	0.8	12.4	36.5	23.0	13.9	8.0	2.2	2.8	0.4	0.0
		B	0.3	5.9	35.5	29.0	13.6	10.1	2.7	2.7	0.3	0.0
2	3歳未満児クラスの主担任	A	0.7	16.0	43.8	20.2	10.7	5.5	1.5	1.3	0.3	0.0
		B	0.2	9.4	43.5	25.2	12.8	5.6	2.0	0.8	0.3	0.0
3	3歳以上児クラスの主担任	A	1.5	11.8	41.4	24.6	10.1	6.2	1.8	2.3	0.3	0.0
		B	0.6	10.1	41.2	27.2	10.4	5.4	2.1	2.7	0.3	0.0
4	子どもの情緒の安定を図ること	A	5.5	31.8	37.1	25.2	5.3	2.8	1.3	0.7	0.3	0.0
		B	2.8	19.4	39.4	23.0	8.5	4.5	1.6	0.5	0.3	0.0
5	子どもの生命の保持を図ること	A	8.4	30.2	34.8	14.9	6.1	2.5	2.2	0.7	0.3	0.0
		B	5.3	20.9	36.7	22.1	8.7	4.0	1.7	0.3	0.2	0.0
6	(食事や排泄、着替えなど)子どもの基本的な生活習慣の支援をすること	A	15.5	43.4	25.9	9.8	3.0	0.9	0.9	0.2	0.4	0.0
		B	9.6	37.0	34.1	12.6	4.0	1.5	0.8	0.1	0.2	0.0
7	子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること	A	9.1	38.1	32.0	12.7	4.8	1.7	1.0	0.2	0.3	0.0
		B	6.1	29.9	39.5	16.1	5.0	1.7	1.2	0.3	0.2	0.0
8	(壁面や季節に応じた装飾、掃除など)保育室や保育所内の環境を整備すること	A	24.9	44.8	20.2	6.2	2.6	0.3	0.4	0.2	0.3	0.0
		B	17.5	42.6	28.0	8.0	1.8	1.1	0.7	0.1	0.2	0.0
9	遊具の安全管理を行うこと	A	18.3	40.6	24.1	9.5	4.7	1.2	0.6	0.6	0.4	0.0
		B	11.8	33.8	30.4	14.1	5.5	2.4	1.4	0.4	0.2	0.0
10	子どもの病気やケガへの対応を判断すること	A	3.0	23.2	32.3	19.2	11.5	6.5	3.2	0.9	0.3	0.0
		B	2.5	15.4	32.8	23.5	13.1	6.9	4.9	0.5	0.3	0.1
11	行政や地域の関係各所との連絡調整を行うこと	A	0.4	5.5	18.8	21.0	19.4	17.7	10.0	6.4	0.7	0.0
		B	0.0	3.2	12.2	20.9	18.7	20.4	15.6	7.6	1.4	0.0
12	指導計画を作成すること	A	11.6	35.5	27.9	14.6	5.9	3.1	0.8	0.3	0.3	0.0
		B	6.8	30.4	33.2	17.7	5.7	3.7	1.9	0.2	0.3	0.0
13	指導計画の確認や助言を行うこと	A	0.9	10.6	27.8	27.1	16.2	11.0	5.2	1.0	0.3	0.0
		B	0.2	4.8	23.7	27.9	20.1	14.5	7.9	0.6	0.3	0.0
14	おたより等の保護者向けの書類を作成すること	A	12.3	34.6	29.2	10.9	6.5	3.4	1.5	1.2	0.3	0.0
		B	7.7	29.1	28.3	17.7	7.7	5.6	2.9	0.6	0.2	0.0
15	職員間の連絡調整等を行うこと	A	5.8	18.8	29.2	18.3	13.2	8.4	4.0	1.5	0.8	0.0
		B	2.0	12.0	22.9	25.6	18.0	11.8	5.4	1.7	0.5	0.0
16	実習生の指導を行うこと	A	1.1	10.6	36.2	30.7	10.8	6.4	3.0	0.9	0.3	0.0
		B	0.5	7.6	32.0	30.9	16.5	8.7	2.8	0.8	0.2	0.0
17	新人保育士の指導を行うこと	A	0.6	8.3	28.2	32.7	17.0	7.9	3.9	1.1	0.4	0.0
		B	0.0	4.9	26.0	33.3	19.3	11.7	3.8	0.6	0.3	0.0
18	新人以外の保育士に指導したり、相談に乗れること	A	0.8	6.4	24.7	27.5	19.9	13.4	5.7	1.1	0.4	0.0
		B	0.0	3.2	16.2	28.2	25.4	17.9	8.0	0.7	0.3	0.0
19	保護者からの相談への対応に関すること	A	1.8	10.4	29.1	25.7	15.0	11.6	5.4	0.9	0.3	0.0
		B	0.6	5.5	19.7	28.0	21.5	15.8	7.5	1.0	0.2	0.0
20	保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること	A	0.6	5.3	16.4	25.8	20.2	18.2	11.3	2.0	0.3	0.0
		B	0.4	2.3	10.4	22.0	22.5	24.1	15.5	2.5	0.2	0.0
21	障害のある子どもの保育に関すること	A	1.5	8.0	22.6	29.2	16.7	11.0	5.5	5.1	0.3	0.0
		B	0.7	5.8	21.2	28.0	18.4	14.0	5.5	5.7	0.5	0.0
22	地域の保護者等に対する子育て支援	A	0.3	5.5	17.8	25.3	18.4	16.2	9.7	6.3	0.4	0.0
		B	0.5	3.1	13.9	23.5	18.7	19.6	12.3	7.9	0.5	0.0
23	小学校との連携に関すること	A	0.2	4.0	18.9	30.1	20.4	14.1	6.9	5.1	0.3	0.0
		B	0.1	2.9	17.2	25.7	18.7	19.1	9.4	6.4	0.4	0.1
24	研修会や学会などでの発表を行うこと	A	1.8	5.5	17.0	19.3	15.5	19.3	15.3	6.1	0.3	0.0
		B	0.4	4.1	11.7	17.6	16.9	20.9	17.6	9.9	0.5	0.3
25	保育士の自己評価について確認や助言を行うこと	A	0.2	3.7	14.3	20.3	19.3	20.8	18.5	2.4	0.3	0.1
		B	0.1	1.6	9.3	16.2	17.7	23.4	24.9	5.8	0.7	0.1

「(食事や排泄、着替えなど) 子どもの基本的な生活習慣の支援をすること」「(壁面や季節に応じた装飾、掃除など) 保育室や保育所内の環境を整備すること」「遊具の安全管理を行うこと」「おたより等の保護者向けの書類を作成すること」では、経験年数にかかわらず、「1年以上3年未満」が最も大きい値であった。また、「乳児クラスの主担任」「3歳未満児クラスの主担任」「3歳以上児クラスの主担任」「子どもの情緒の安定を図ること」「子どもの生命の保持を図ること」「子どもの病気やケガへの対応を判断すること」「実習生の指導を行うこと」では、経験年数にかかわらず、「3年以上5年未満」が最も大きい値であった。

「行政や地域の関係各所との連絡調整を行うこと」「新人保育士の指導を行うこと」「新人以外の保育士に指導したり、相談に乗れること」「障害のある子どもの保育に関すること」「地域の保護者等に対する子育て支援」「小学校との連携に関すること」では、経験年数にかかわらず、「5年以上7年未満」が最も大きい値であった。さらに「研修会や学会などでの発表を行うこと」では、経験年数にかかわらず、「10年以上」が最も大きい値であった。

これまでは、経験年数にかかわらず、最も大きい値が同じ年齢範囲である業務を列挙してきたが、以下では経験年数による差に注目する。

「子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること」と「指導計画を作成すること」では、7年未満の保育士（A票の回答者）は「1年以上3年未満」が最も大きな値であったが、7年以上の保育士（B票の回答者）は「3年以上5年未満」が最も大きな値であった。また、「指導計画の確認や助言を行うこと」「職員間の連絡調整等を行うこと」「保護者からの相談への対応に関すること」では、7年未満の保育士（A票の回答者）は「3年以上5年未満」が最も大きな値であったが、7年以上の保育士（B票の回答者）は「5年以上7年未満」が最も大きな値であった。

さらに、「保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること」では、7年未満の保育士（A票の回答者）は「5年以上7年未満」、7年以上の保育士（B票の回答者）は「7年以上10年未満」が最も大きな値であった。また、「保育士の自己評価について確認や助言を行うこと」では、7年未満の保育士（A票の回答者）は「10年以上15年未満」、7年以上の保育士（B票の回答者）は「15年以上」が最も大きな値であった。

これらの結果には、共通点がある。一貫して、7年未満の保育士（A票の回答者）の方が7年以上の保育士（B票の回答者）よりも、少ない経験年数で、自信を持ってできると答えていることである。このことについて、表Ⅱ-2の値をよく見てみると、次のことが明らかになった。すなわち、「1年未満」と「1年以上3年未満」を選んだ者の割合は、7年未満の保育士（A票の回答者）の方が7年以上の保育士（B票の回答者）よりも、一貫して、大きな値であった。これらのことは、7年未満の保育士（A票の回答者）の方が7年以上の保育士（B票の回答者）よりも、低い年齢で自信を持ってさまざまな業務ができていることを示している。

次に、保育所長用と同様に、各値を累積的に算出した（表Ⅱ－３）。50%以上の値のところでフォントを変えた。

表Ⅱ－３ 各業務を自信を持ってできる保育士の勤務年数に関する累積された割合（％）

			1 年未満	Σ 1 年以上 3 年未満	Σ 3 年以上 5 年未満	Σ 5 年以上 7 年未	Σ 7 年以上 10 年未満	Σ 10 年以上 15 年未満	Σ 15 年以上
1	乳児クラスの主担任	A	0.8	13.2	49.7	72.7	86.6	94.6	96.8
		B	0.3	6.3	41.7	70.7	84.3	94.4	97.0
2	3 歳未満児クラスの主担任	A	0.7	16.6	60.5	80.6	91.3	96.8	98.3
		B	0.2	9.7	53.2	78.3	91.2	96.8	98.8
3	3 歳以上児クラスの主担任	A	1.5	13.3	54.7	79.3	89.4	95.6	97.4
		B	0.6	10.7	51.9	79.1	89.5	94.9	97.0
4	子どもの情緒の安定を図ること	A	5.5	37.3	74.4	89.6	94.9	97.7	99.0
		B	2.8	22.2	61.6	84.6	93.1	97.6	99.2
5	子どもの生命の保持を図ること	A	8.4	38.5	73.3	88.2	94.3	96.8	99.0
		B	5.3	26.2	63.0	85.0	93.7	97.8	99.5
6	(食事や排泄、着替えなど)子どもの基本的生活習慣の支援をすること	A	15.5	58.9	84.8	94.6	97.6	98.5	99.3
		B	9.6	46.6	80.7	93.3	97.3	98.8	99.7
7	子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること	A	9.1	47.2	79.3	92.0	96.8	98.5	99.4
		B	6.1	36.0	75.5	91.6	96.6	98.3	99.5
8	(壁面や季節に応じた装飾、掃除など)保育室や保育所内の環境を整備すること	A	24.9	69.7	89.9	96.0	98.7	99.0	99.4
		B	17.5	60.1	88.1	96.1	97.9	98.9	99.7
9	遊具の安全管理を行うこと	A	18.3	58.9	83.0	92.5	97.2	98.5	99.0
		B	11.8	45.5	75.9	90.0	95.5	98.0	99.4
10	子どもの病気やケガへの対応を判断すること	A	3.0	26.2	58.5	77.6	89.1	95.6	98.8
		B	2.5	17.9	50.7	74.2	87.3	94.2	99.0
11	行政や地域の関係各所との連絡調整を行うこと	A	0.4	5.9	24.8	45.8	65.2	82.9	93.0
		B	0.0	3.2	15.4	36.3	55.0	75.4	91.0
12	指導計画を作成すること	A	11.6	47.0	74.9	89.5	95.5	98.6	99.3
		B	6.8	37.2	70.4	88.1	93.8	97.6	99.5
13	指導計画の確認や助言を行うこと	A	0.9	11.5	39.2	66.3	82.5	93.5	98.7
		B	0.2	5.0	28.7	56.6	76.6	91.2	99.0
14	おたより等の保護者向けの書類を作成すること	A	12.3	46.9	76.1	87.0	93.5	96.9	98.5
		B	7.7	36.8	65.2	82.9	90.7	96.3	99.2
15	職員間の連絡調整等を行うこと	A	5.8	24.7	53.9	72.1	85.4	93.7	97.7
		B	2.0	14.0	36.9	62.5	80.6	92.4	97.8
16	実習生の指導を行うこと	A	1.1	11.7	47.9	78.6	89.4	95.8	98.8
		B	0.5	8.2	40.1	71.0	87.5	96.2	98.9
17	新人保育士の指導を行うこと	A	0.6	8.8	37.0	69.7	86.7	94.6	98.5
		B	0.0	4.9	30.9	64.2	83.5	95.2	99.0
18	新人以外の保育士に指導したり、相談に乗れること	A	0.8	7.2	31.8	59.4	79.3	92.7	98.5
		B	0.0	3.2	19.4	47.7	73.0	91.0	98.9
19	保護者からの相談への対応に関すること	A	1.8	12.1	41.2	66.9	81.8	93.4	98.8
		B	0.6	6.2	25.9	53.9	75.5	91.3	98.8
20	保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること	A	0.6	5.8	22.2	48.0	68.2	86.3	97.7
		B	0.4	2.8	13.2	35.1	57.6	81.7	97.2
21	障害のある子どもの保育に関すること	A	1.5	9.6	32.2	61.3	78.1	89.1	94.6
		B	0.7	6.6	27.8	55.8	74.2	88.2	93.7
22	地域の保護者等に対する子育て支援	A	0.3	5.8	23.7	49.0	67.4	83.6	93.3
		B	0.5	3.6	17.5	41.0	59.7	79.3	91.6
23	小学校との連携に関すること	A	0.2	4.2	23.1	53.2	73.6	87.7	94.6
		B	0.1	3.0	20.2	45.9	64.5	83.7	93.1
24	研修会や学会などでの発表を行うこと	A	1.8	7.3	24.2	43.5	59.0	78.3	93.6
		B	0.4	4.6	16.2	33.9	50.7	71.7	89.3
25	保育士の自己評価について確認や助言を行うこと	A	0.2	4.0	18.3	38.5	57.8	78.6	97.1
		B	0.1	1.7	11.0	27.3	45.0	68.4	93.3

経験年数にかかわらず、「(壁面や季節に応じた装飾、掃除など) 保育室や保育所内の環境を整備すること」で50%を超えたのは、「Σ 1年以上3年未満」であった。また、経験年数にかかわらず、「3歳未満児クラスの主担任」「3歳以上児クラスの主担任」「子どもの情緒の安定を図ること」「子どもの生命の保持を図ること」「子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること」「子どもの病気やケガへの対応を判断すること」「指導計画を作成すること」「おたより等の保護者向けの書類を作成すること」で50%を超えたのは、「Σ 3年以上5年未満」であった。

同様に、「乳児クラスの主担任」「指導計画の確認や助言を行うこと」「実習生の指導を行うこと」「新人保育士の指導を行うこと」「保護者からの相談への対応に関すること」「障害のある子どもの保育に関すること」で50%を超えたのは「Σ 5年以上7年未満」、行政や地域の関係各所との連絡調整を行うこと」「保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること」「地域の保護者等に対する子育て支援」「研修会や学会などでの発表を行うこと」で50%を超えたのは「Σ 7年以上10年未満」であった。

経験年数による違いが見られたのは6つの業務であった。「(食事や排泄、着替えなど) 子どもの基本的生活習慣の支援をすること」と「遊具の安全管理を行うこと」では、7年未満の保育士(A票の回答者)は「Σ 1年以上3年未満」、7年以上の保育士(B票の回答者)は「Σ 3年以上5年未満」で50%を超えた。「職員間の連絡調整等を行うこと」では、7年未満の保育士(A票の回答者)は「Σ 3年以上5年未満」、7年以上の保育士(B票の回答者)は「Σ 5年以上7年未満」で50%を超えた。

また、「新人以外の保育士に指導したり、相談に乗れること」と「小学校との連携に関すること」では、7年未満の保育士(A票の回答者)は「Σ 5年以上7年未満」、7年以上の保育士(B票の回答者)は「Σ 7年以上10年未満」で50%を超えた。「保育士の自己評価について確認や助言を行うこと」では、7年未満の保育士(A票の回答者)は「Σ 7年以上10年未満」、7年以上の保育士(B票の回答者)は「Σ 10年以上15年未満」で50%を超えた。

このように、経験年数による顕著な違いが見られた業務では、一貫して、7年未満の保育士(A票の回答者)の方が、7年以上の保育士(B票の回答者)よりも、少ない経験年数で「自信を持ってできるようになる」と答えていた。

3. 研修

「次の各業務に対するスキルアップのための研修に関して、あなたの希望と経験等についてお尋ねします。」として、該当する研修の全てに○をつけてもらった。その結果が、表Ⅱ-4である。50%を超えた値のところでフォントを変えた。

表Ⅱ－４ 研修の希望と経験の割合（％）

			希望	園内研修経験	園外研修経験	自己研鑽経験
1	乳児クラスの主担任	A	58.3	14.6	23.6	18.0
		B	49.4	25.1	48.3	32.5
2	3歳未満児クラスの主担任	A	54.0	13.7	22.5	19.2
		B	43.4	24.8	45.4	33.8
3	3歳以上児クラスの主担任	A	55.8	14.6	22.1	20.3
		B	42.7	23.6	43.6	32.2
4	子どもの情緒の安定を図ること	A	53.9	19.4	34.1	14.6
		B	45.0	30.6	52.4	25.2
5	子どもの生命の保持を図ること	A	45.9	20.3	32.2	12.0
		B	40.8	32.5	51.0	21.5
6	（食事や排泄、着替えなど）子どもの基本的生活習慣の支援をすること	A	34.6	18.4	22.2	18.7
		B	26.9	28.0	36.9	28.1
7	子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること	A	60.0	21.6	42.7	22.0
		B	46.8	33.3	56.1	35.4
8	（壁面や季節に応じた装飾、掃除など）保育室や保育所内の環境を整備すること	A	27.4	16.6	13.0	27.6
		B	21.9	24.3	23.6	38.3
9	遊具の安全管理を行うこと	A	25.0	19.9	10.7	4.4
		B	24.6	30.8	24.5	10.3
10	子どもの病気やケガへの対応を判断すること	A	61.5	30.2	35.0	13.7
		B	52.7	41.0	55.2	24.3
11	行政や地域の関係各所との連絡調整を行うこと	A	20.9	6.7	6.4	2.5
		B	26.5	10.6	23.4	6.4
12	指導計画を作成すること	A	33.8	20.9	13.2	27.5
		B	31.1	35.2	38.2	39.7
13	指導計画の確認や助言を行うこと	A	22.8	11.6	3.5	8.5
		B	26.9	21.3	18.0	18.7
14	おたより等の保護者向けの書類を作成すること	A	25.2	10.9	4.4	20.7
		B	20.8	17.6	10.9	31.8
15	職員間の連絡調整等を行うこと	A	19.7	13.5	6.7	2.4
		B	19.6	19.3	19.9	8.0
16	実習生の指導を行うこと	A	25.2	9.4	1.0	5.1
		B	23.4	16.3	6.8	10.8
17	新人保育士の指導を行うこと	A	29.2	8.1	4.6	4.1
		B	33.7	15.9	19.3	9.6
18	新人以外の保育士に指導したり、相談に乗れること	A	23.6	6.4	4.4	3.9
		B	28.5	12.5	19.3	9.8
19	保護者からの相談への対応に関すること	A	56.6	17.7	24.6	8.1
		B	47.9	23.5	45.3	17.3
20	保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること	A	57.4	19.4	25.0	7.3
		B	54.1	27.1	48.2	16.5
21	障害のある子どもの保育に関すること	A	68.2	17.0	48.9	16.6
		B	60.6	30.7	69.9	30.1
22	地域の保護者等に対する子育て支援	A	32.3	5.6	12.6	2.9
		B	32.8	10.9	32.6	8.3
23	小学校との連携に関すること	A	31.5	7.3	13.2	3.1
		B	34.3	11.4	34.5	8.7
24	研修会や学会などでの発表を行うこと	A	19.1	7.3	8.1	3.6
		B	20.1	14.2	19.3	8.5
25	保育士の自己評価について確認や助言を行うこと	A	20.0	11.2	5.1	3.0
		B	31.4	20.9	20.6	10.3

(1) 希望

「希望」欄には、希望されるすべての研修について、経験の有無を問わず（さらに研修を受けたい場合も含む）、○をつけて下さい」とした。

経験年数にかかわらず、「子どもの病気やケガへの対応を判断すること」「保護者からの苦情やクレームへの対応に関すること」および「障害のある子どもの保育に関すること」では、希望が50%を超えていた。これらの業務は、多くの保育士が研修を希望している。「子どもの生命の保持を図ること」も、経験年数にかかわらず、希望が40%を超えていた。反対に、「職員間の連絡調整等を行うこと」は、経験年数にかかわらず、20%以下であった。研修が意識されにくい業務といえる

経験年数による違いを見てみよう。「乳児クラスの主担任」「3歳未満児クラスの主担任」「3歳以上児クラスの主担任」「子どもの情緒の安定を図ること」「子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること」「保護者からの相談への対応に関すること」は、いずれも7年未満の保育士（A票の回答者）だけが50%を超えていた。これらの業務には経験年数による顕著な違いが見られたが、数値を見ると、7年以上の保育士（B票の回答者）も研修希望が40%を超えているなど、希望が高い業務には違いない。

(2) 経験

「経験等」欄には、過去に経験された研修等のすべてに○をつけて下さい。（なお、ここでの園外研修は、公費による研修に限ります。私費による園外研修や、書籍の購入等については、自己研鑽に○をつけて下さい。）とした。

園内研修の経験を見ると、50%を超えた業務は、どちらの経験年数でもなかった。園内で様々な業務に対する研修システムが確立されていないことがうかがえる。

園外研修では、次の5つの業務で50%を超えていた。すなわち、「子どもの情緒の安定を図ること」「子どもの生命の保持を図ること」「子どもが様々なことに興味や関心を持つような活動を提供すること」「子どもの病気やケガへの対応を判断すること」「障害のある子どもの保育に関すること」で50%を超えていた。しかし50%を超えていたのは、7年以上の保育士（B票の回答者）だけであった。また、その園外研修が、必ずしも園内研修には結びついていないことも、この表には示されている。

自己研鑽の経験で、50%を超える業務はなかった。自己研鑽も、園外研修や園内研修の経験が結びついていないことが示唆される。

(4) 仕事への「やりがい」

「あなたは次のようなときに、仕事への「やりがい」をどの程度感じますか？該当する番号

を1つだけ選んで○をつけて下さい」として、「まったく感じない」から「非常に感じる」の6段階の評定尺度を設けた。さらに、「経験したことがない」場合は、「－」に○をつけて下さい」として、経験の有無も尋ねた。その結果が表Ⅱ－5である。横に見て、最も大きな値のフォントを変えた。

「自分の仕事で子どもが喜んだとき」「子どもの成長を感じることができたとき」「保護者から感謝されたとき」「他の職員との協働で目標が達成できたとき」は、勤務年数にかかわらず、「非常に感じる」という回答が最も大きい値であった。また、「給料が上がったとき」「役職があがったとき」は、勤務年数にかかわらず、「感じる」という回答が最も大きい値であった。

「上司に自分の仕事が認められたとき」と「自分に任せられた業務を全うできたとき」では、7年未満の保育士（A票の回答者）は「感じる」、7年以上の保育士（B票の回答者）は「非常に感じる」の回答が最も大きい値であった。

表Ⅱ－5 「やりがい」を感じる程度（％）

			まったく 感じない	感じない	あまり感 じない	まあまあ 感じる	感じる	非常に感 じる	経験した ことがな い	無回答	複数回答
1	給料が上がったとき	A	0.4	0.6	3.5	16.3	39.3	32.9	5.6	1.3	0.0
		B	0.2	1.5	6.5	15.7	39.0	34.9	1.1	1.2	0.0
2	役職があがったとき	A	0.7	3.0	6.5	16.2	23.7	12.9	35.2	1.8	0.1
		B	1.4	3.1	13.1	17.2	26.0	12.3	25.5	1.4	0.1
3	上司に自分の仕事が認められたとき	A	0.2	0.7	7.8	33.3	55.4	0.9	1.7	0.0	0.1
		B	0.1	0.2	1.4	7.4	36.2	52.2	0.7	1.7	0.0
4	自分の仕事で子どもが喜んだとき	A	0.0	0.0	0.0	2.6	19.2	77.1	0.0	1.1	0.0
		B	0.0	0.0	0.2	1.9	20.6	76.0	0.0	1.1	0.2
5	子どもの成長を感じることができたとき	A	0.0	0.1	0.0	1.4	17.3	80.2	0.0	1.0	0.0
		B	0.0	0.1	0.0	1.7	18.3	79.0	0.0	1.0	0.0
6	保護者から感謝されたとき	A	0.0	0.1	0.2	4.1	26.5	67.2	0.4	1.2	0.2
		B	0.0	0.1	0.2	4.7	27.1	66.9	0.0	1.1	0.0
7	自分に任せられた業務を全うできたとき	A	0.1	0.2	1.1	12.7	43.2	40.3	0.8	1.7	0.0
		B	0.0	0.1	1.0	9.9	41.6	46.3	0.0	1.1	0.1
8	責任の重い仕事や役割を任せられたとき	A	0.4	0.9	9.7	27.5	34.5	18.3	7.0	1.5	0.1
		B	0.7	2.1	10.5	22.3	38.9	21.5	2.7	1.3	0.0
9	新しい仕事や任務を任せられたとき	A	0.2	0.8	11.0	30.9	35.6	17.5	2.5	1.4	0.0
		B	0.5	1.4	11.1	27.5	38.9	17.5	1.7	1.4	0.0
10	他の職員との協働で目標が達成できたとき	A	0.1	0.0	0.8	12.8	39.1	45.6	0.6	1.1	0.0
		B	0.0	0.1	0.8	8.6	36.6	52.3	0.5	1.0	0.0

③考察：キャリアパスモデル

表Ⅰ－3の選択肢である1～7を間隔尺度と考えると平均値を算出し、平均値の小さい順に並べたものが表Ⅲ－1である。この表に基づいて想定したキャリアパスモデルが図Ⅲ－1である。

表Ⅰ－3は、各業務を実際に行っている保育士のおおむねの勤務年数に基づくものなので、これに基づくキャリアパスを考えることは、現実には即していると考えられる。

表Ⅲ－１ 間隔尺度として算出した平均値

環境整備	2.88
基本的生活習慣支援	3.13
興味関心を持つ活動の提供	3.36
生命の保持	3.86
情緒の安定	3.90
指導計画作成	3.91
遊具の安全管理	3.98
保護者向け書類作成	4.25
障がい児保育	4.64
3歳未満児クラス主担任	4.72
3歳以上児クラス主担任	4.79
乳児クラス主担任	5.09
研修会・学会での発表	5.11
病気やケガへの対応	5.16
新人保育士 指導	5.35
実習生 指導	5.44
職員間 連絡調整	5.51
保護者 相談対応	5.52
小学校との連携	5.60
地域向け 子育て支援	5.62
指導計画確認・助言	5.67
新人以外の保育士 指導	5.77
関連各所 連絡調整	5.94
保護者 苦情・クレーム対応	6.10
自己評価 確認・助言	6.12

		環境整備	基本的生活習慣支援	興味関心を持つ活動の提供	生命の保持	情緒の安定	指導計画作成	遊具の安全管理	保護者向け書類作成	障がい児保育	3歳未満児クラス主担任	3歳以上児クラス主担任	乳児クラス主担任	研修会・学会での発表	病気やケガへの対応	新人保育士 指導	実習生 指導	職員間 連絡調整	保護者 相談対応	小学校との連携	地域向け 子育て支援	指導計画確認・助言	新人以外の保育士 指導	関連各所 連絡調整	保護者 苦情・クレーム対応	自己評価 確認・助言
	平均値	2.83	3.13	3.36	3.86	3.90	3.91	3.98	4.25	4.64	4.72	4.79	5.09	5.11	5.16	5.35	5.44	5.51	5.52	5.60	5.62	5.67	5.77	5.94	6.10	6.12
1	1年未満																									
2	1年以上3年未満																									
3	3年以上5年未満																									
4	5年以上7年未満																									
5	7年以上10年未満																									
6	10年以上15年未満																									
7	15年以上																									
教えてもらってできる																										
自分自身の力でできる																										
他の保育士を指導できる																										
保育士の集団や組織、園全体をリードできる																										

図Ⅲ－１ キャリアパスモデル案

表Ⅰ－５は、各業務を理想として任せたい保育士のおおむねの勤務年数であった。この表に基づいても、同様のキャリアパスを検討できる。表Ⅲ－１と同様に平均値を算出し、表Ⅲ－１と比較したものが表Ⅲ－２である。順位が３以上離れている業務は、「遊具の安全管理」と「保護者相談」の２つだけであった。これら２つも平均値でみると、実際と理想のどちらも、前者は３以上４以下、後者は５以上６以下と変わらない。そのため、これを基準にキャリアパスモデルを組んだとしても、図Ⅲ－１の第１行にある業務を並べる順番が若干変わるくらいで大きな変更はない。なお、平均値の切れ目については、当初理想的であったとしても、時が経てば、実際にその業務を実施している者の経験年数が上がるという点で、若干ズレがあるのは当然であろう。

表Ⅲ－２ 保育所長が判断する業務に対する難易度の順

実際			理想		
順位	業務	平均	順位	業務	平均
1	環境整備	2.88	1	環境整備	2.67
2	基本的生活習慣支援	3.13	2	興味関心を持つ活動の提供	3.20
3	興味関心を持つ活動の提供	3.36	3	基本的生活習慣支援	3.22
4	生命の保持	3.86	4	遊具の安全管理	3.63
5	情緒の安定	3.90	5	指導計画作成	3.95
6	指導計画作成	3.91	6	生命の保持	4.00
7	遊具の安全管理	3.98	7	情緒の安定	4.04
8	保護者向け書類作成	4.25	8	保護者向け書類作成	4.13
9	障がい児保育	4.64	9	３歳以上児クラス主担任	4.35
10	３歳未満児クラス主担任	4.72	10	３歳未満児クラス主担任	4.59
11	３歳以上児クラス主担任	4.79	11	障がい児保育	4.61
12	乳児クラス主担任	5.09	12	病気やケガへの対応	4.64
13	研修会・学会での発表	5.11	13	研修会・学会での発表	4.87
14	病気やケガへの対応	5.16	14	乳児クラス主担任	4.99
15	新人保育士 指導	5.35	15	実習生 指導	5.03
16	実習生 指導	5.44	16	新人保育士 指導	5.07
17	職員間 連絡調整	5.51	17	職員間 連絡調整	5.09
18	保護者 相談対応	5.52	18	小学校との連携	5.18
19	小学校との連携	5.60	19	地域向け 子育て支援	5.22
20	地域向け 子育て支援	5.62	20	指導計画確認・助言	5.29
21	指導計画確認・助言	5.67	21	保護者 相談対応	5.40
22	新人以外の保育士 指導	5.77	22	新人以外の保育士 指導	5.50
23	関連各所 連絡調整	5.94	23	関連各所 連絡調整	5.60
24	保護者 苦情・クレーム対応	6.10	24	保護者 苦情・クレーム対応	5.78
25	自己評価 確認・助言	6.12	25	自己評価 確認・助言	5.91

保育士編でも「次の各業務を自信を持ってできるようになるには、おおむね何年の経験が必要だと思いますか」として、全く同じ選択肢で調査していた。そこで、同様に平均値を算出し、難易度の順に並べてみた。その結果が表Ⅲ－３である。全業務の平均値の高い順に、保育所長判断の実際、保育所長判断の理想、７年以上の経験を持つ保育士の判断（Ｂ）、７年未満の経験を持つ保育士の判断（Ａ）とした。

保育所長判断の理想と７年以上の保育士の判断で順位で３段階以上離れているのは、６つの業務であった。このうち「障害児保育」「研修会・学会での発表」の２つは、保育所長の理

想の方が順位が高かった。「職員間 連絡調整」「指導計画確認・助言」「保護者 相談対応」「新人以外の保育士指導」は、7年以上の経験を持つ保育士の判断の方が順位が高かった。

7年以上と7年未満の保育士の判断で、順位で3段階以上離れているのは、「職員間 連絡調整」だけであった。

しかしながら、平均値の範囲で見ると、これらの乖離はそれほど大きなものではなかった。そこで、保育士の自信に配慮する意味で、図Ⅲ－1のキャリアパスモデルを修正するのであれば、修正点は1つだけである。すなわち、障害児保育の位置を少し右に動かすことが適当かもしれない。

表Ⅲ－3 業務の難易度に関する評価

保育所長				保育士（自信を持ってできるようになる経験年数）			
実際に行っている		理想として任せたい		B（7年以上）		A（7年未満）	
環境整備	2.88	環境整備	2.67	環境整備	2.40	環境整備	2.19
基本的生活習慣支援	3.13	興味関心を持つ活動の提供	3.20	基本的生活習慣支援	2.72	遊具の安全管理	2.47
興味関心を持つ活動の提供	3.36	基本的生活習慣支援	3.22	遊具の安全管理	2.81	基本的生活習慣支援	2.47
生命の保持	3.86	遊具の安全管理	3.63	興味関心を持つ活動の提供	2.94	興味関心を持つ活動の提供	2.75
情緒の安定	3.90	指導計画作成	3.95	指導計画作成	3.04	指導計画作成	2.80
指導計画作成	3.91	生命の保持	4.00	保護者向け書類作成	3.17	保護者向け書類作成	2.81
遊具の安全管理	3.98	情緒の安定	4.04	生命の保持	3.27	情緒の安定	2.96
保護者向け書類作成	4.25	保護者向け書類作成	4.13	情緒の安定	3.35	生命の保持	2.96
障がい児保育	4.64	3歳以上児クラス主担任	4.35	3歳以上児クラス主担任	3.63	病気やケガへの対応	3.46
3歳未満児クラス主担任	4.72	3歳未満児クラス主担任	4.59	3歳未満児クラス主担任	3.67	3歳未満児クラス主担任	3.48
3歳以上児クラス主担任	4.79	障がい児保育	4.61	病気やケガへの対応	3.70	職員間 連絡調整	3.56
乳児クラス主担任	5.09	病気やケガへの対応	4.64	乳児クラス主担任	3.93	3歳以上児クラス主担任	3.57
研修会・学会での発表	5.11	研修会・学会での発表	4.87	実習生 指導	3.93	実習生 指導	3.71
病気やケガへの対応	5.16	乳児クラス主担任	4.99	職員間 連絡調整	4.05	乳児クラス主担任	3.72
新人保育士 指導	5.35	実習生 指導	5.03	新人保育士 指導	4.19	新人保育士 指導	3.98
実習生 指導	5.44	新人保育士 指導	5.07	障がい児保育	4.30	保護者 相談対応	3.99
職員間 連絡調整	5.51	職員間 連絡調整	5.09	指導計画確認・助言	4.39	指導計画確認・助言	4.02
保護者 相談対応	5.52	小学校との連携	5.18	保護者 相談対応	4.44	障がい児保育	4.13
小学校との連携	5.60	地域向け 子育て支援	5.22	新人以外の保育士指導	4.63	新人以外の保育士指導	4.25
地域向け 子育て支援	5.62	指導計画確認・助言	5.29	小学校との連携	4.67	小学校との連携	4.44
指導計画確認・助言	5.67	保護者 相談対応	5.40	地域向け 子育て支援	4.80	地域向け 子育て支援	4.54
新人以外の保育士指導	5.77	新人以外の保育士指導	5.50	関連各所 連絡調整	4.96	関連各所 連絡調整	4.58
関連各所 連絡調整	5.94	関連各所 連絡調整	5.60	研修会・学会での発表	5.01	保護者 苦情・クレーム対応	4.63
保護者 苦情・クレーム対応	6.10	保護者 苦情・クレーム対応	5.78	保護者 苦情・クレーム対応	5.04	研修会・学会での発表	4.71
自己評価 確認・助言	6.12	自己評価 確認・助言	5.91	自己評価 確認・助言	5.35	自己評価 確認・助言	4.97
平均	4.86		4.64		3.94		3.65

